

瑞穂町まち・ひと・しごと創生
総合戦略

令和3年3月

瑞穂町



目次

1. はじめに.....	1
2. 瑞穂町人口ビジョン.....	2
1) 我が国及び東京都の人口動向	2
(1)本格的な人口減少と超高齢社会の到来	2
(2)人口構造の変化による影響	3
2) 瑞穂町人口の現況.....	3
(1)総人口の推移.....	3
(2)瑞穂町の世帯	4
(3)年齢階層別人口(人口3区分)	5
(4)出生について.....	5
(5)死亡について.....	6
(6)外国人人口	7
(7)15 歳以上の自宅外通勤通学者流出口.....	8
(8)昼間人口と夜間人口.....	8
3) 将来人口の推計	9
(1)推計方法	9
(2)推計の基礎となる人口データについて.....	9
(3)原単位数値等の設定.....	10
(4)人口推計結果	13
3. 瑞穂町総合戦略.....	26
1)総合戦略の位置づけ.....	26
2)国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と瑞穂町総合戦略の施策の柱.....	27
3)総合戦略の基本目標	28
(1)時代に対応したまちづくりと地域経済の活性化	28
(2)新しい人の流れをつくる	28
(3)女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備.....	28
(4)健康で安心して暮らせる地域づくり.....	29
4)数値目標.....	29
5)具体的な施策	30
(1)時代に対応したまちづくりと地域経済の活性化	30
(2)新しい人の流れをつくる	30
(3)女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備.....	31
(4)健康で安心して暮らせる地域づくり.....	32

1. はじめに

平成 27(2015)年度に策定した「瑞穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下「総合戦略」という。)が令和2(2020)年度をもって計画期間の終了を迎えることに伴い、人口減少に歯止めをかけるとともに、活力ある地域社会を維持するという方向性は長期総合計画と同一のものであることから、第5次瑞穂町長期総合計画と総合戦略を一体的に策定することとしました。

総合戦略の理念等は長期総合計画の体系の一部として扱い、その施策については、基本計画に含まれているものとします。

【掲載表、グラフの数値について】

掲載表、グラフの数値は、足し上げると合計として表記されている数値と一致しない場合があります。これは掲載表・グラフ上では表示されていませんが、実際にはそれぞれの数値に、小数点以下の数字が存在していることにより、合計が一致しない場合があります。

2. 瑞穂町人口ビジョン

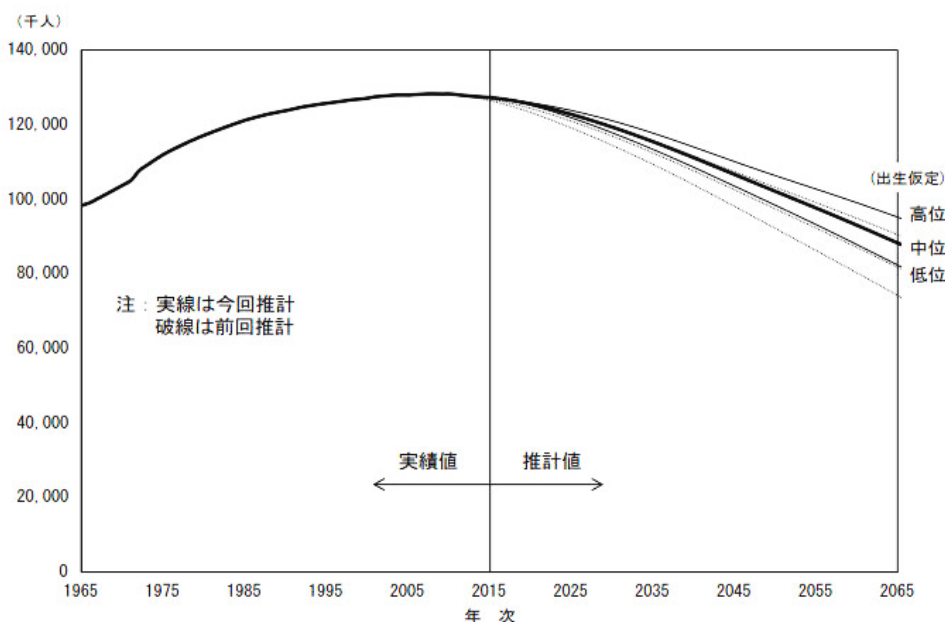
1) 我が国及び東京都の人口動向

(1) 本格的な人口減少と超高齢社会の到来

我が国の総人口は、戦後しばらく増加を続けていましたが、2008(平成20)年の約1億2,808万人をピークに減少に転じ、2019(令和元)年10月1日現在では約1億2,616万と減少傾向は強まっています。一方で、外国人人口は7年連続の増加となっていて、増加数の伸びは拡大しています。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計(出生中位(死亡中位)推計)による我が国の将来人口は、2065(令和47)年には約8,808万人(中位)にまで減少することが予測されています^{※1}。

日本の総人口の推移



出典:「日本の将来人口推計(平成29年推計)」国立社会保障・人口問題研究所 P2

東京都の人口は、緩やかな増加傾向にあり2021(令和3)年1月1日現在1,396万人となっています。東京都「未来の東京」戦略ビジョン(2019年12月策定)では、今後増加を続けて2025(令和7)年に1,417万人とピークを迎え、その後減少し、2060(令和42)年には1,192万人になるとされています。

2060(令和42)年には、人口構成が激変し、年少人口は4割減、生産年齢人口は2割減となる一方、65歳以上の人口は3倍へと大幅に増加すると予測されています。

また、年間の出生数は、昭和40年代後半以降減少傾向が続いていましたが、2005(平成17)年を底に微増傾向に転じ、2018(平成30)年の出生数は10万7,150人となっています。

※1 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2018年推計)より抜粋

(2) 人口構造の変化による影響

我が国の世帯の状況は、2016(平成28)年には単独世帯が26.9%、核家族世帯が60.5%、三世帯が5.9%となっています^{※1}。

東京都の試算では、全国より早く世帯の小規模化が進み、2040(令和22)年には全世帯の半分が一人暮らし(単独世帯)となり、また、65歳以上世帯の45%が一人暮らしになると予測されています。また、これまで主流であった核家族(夫婦と子どもの世帯)は、2060(令和42)年には2割を割り込むとされています^{※2}。

世帯の小規模化は、世帯を単位として考えられてきた社会保障制度や子育て、教育、介護などの生活保障機能が縮小、世代間の交流や人のつながりを低下させ、社会全体の活力の低下にもつながる恐れがあります。

そして、生産年齢人口の減少は産業分野にとどまらず社会全般に人材不足を引き起こすと考えられ、各産業での就業者数確保は重要な課題となっています。そのため、国においては、生産年齢人口の減少が進む中でも、日本経済の成長戦略、一億総活躍、働き方改革、人生100年時代等の取組を通じて、女性や高齢者の社会進出が増加するとして、就業者数は増加傾向となっています^{※3}。

※1 厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成30年)より抜粋

※2 東京都「未来の東京」戦略ビジョン(2019年12月)より抜粋

※3 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和元年12月20日改訂版閣議決定)より抜粋

2) 瑞穂町人口の現況

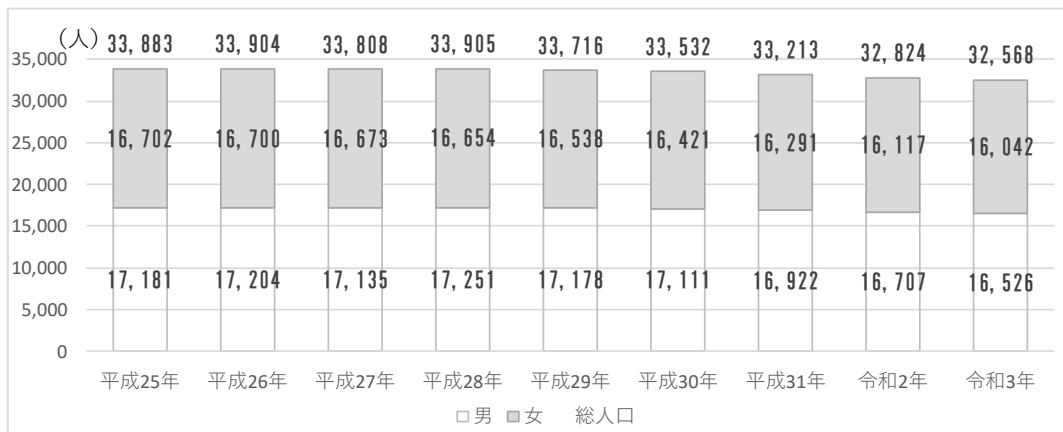
(1) 総人口の推移

瑞穂町の人口は、住民基本台帳人口によると2013(平成25)年の約33,900人をピークに2015(平成27)年まではおおむね横ばい傾向にあり、それ以降は、微減傾向となっています。

瑞穂町の総人口

各年1月1日現在 単位:人

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
男	17,181	17,204	17,135	17,251	17,178	17,111	16,922	16,707	16,526
女	16,702	16,700	16,673	16,654	16,538	16,421	16,291	16,117	16,042
総人口	33,883	33,904	33,808	33,905	33,716	33,532	33,213	32,824	32,568

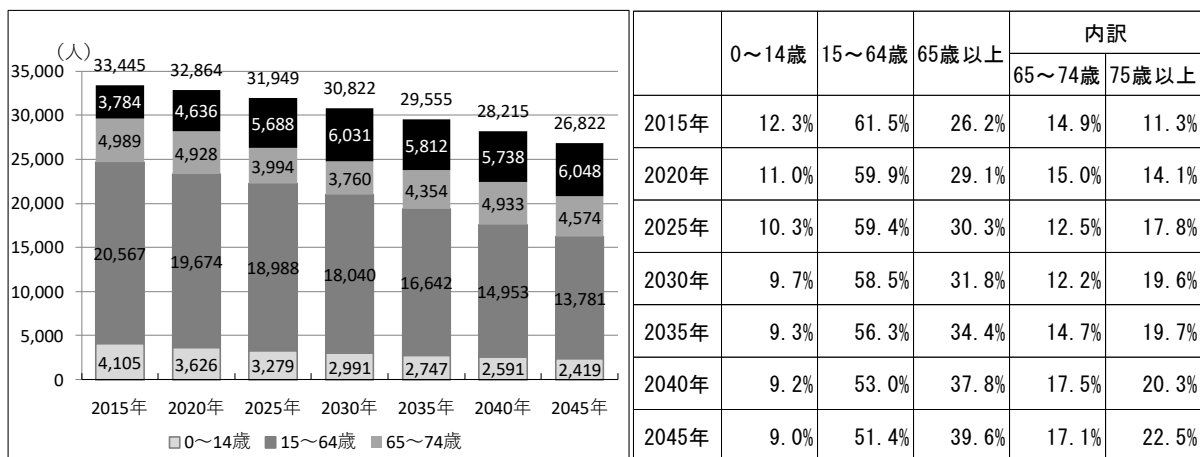


出典:「瑞穂町の人口と世帯数の履歴」町 HP より作成

社人研の「日本の地域別将来推計」(2018年推計)による瑞穂町の将来人口は、2045(令和27)年には26,822人と予測されています。

また、2020(令和2)年から2045(令和27)年の人口構造では、年少人口(0～14歳)が3割強の減、生産年齢人口(15歳～64歳)についても3割減、65歳以上人口は1割強増加し、65歳以上の人口は全体の約4割を占めると予測されています。65歳以上の高齢者の割合についても、2025(令和7)年には後期高齢者(75歳以上)が増加し、2045(令和27)年には65歳以上の約6割弱が後期高齢者になるとされています。

社人研推計による瑞穂町将来人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より作成

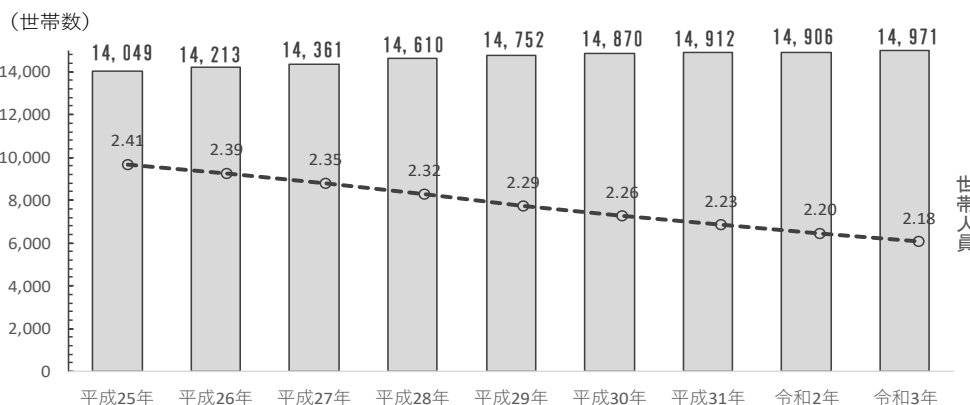
(2) 瑞穂町の世帯

瑞穂町の世帯数は2018(平成30)年までは増加傾向にありましたが、それ以降は頭打ちの状況となっています。

世帯人員規模は縮小傾向にあり、令和2年には2.18人にまで減少しています。

瑞穂町の世帯状況(1月1日現在)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
世帯数	14,049	14,213	14,361	14,610	14,752	14,870	14,912	14,906	14,971
世帯人員	2.41	2.39	2.35	2.32	2.29	2.26	2.23	2.20	2.18



出典：「瑞穂町の人口と世帯数の履歴」(町HP)より作成

また、瑞穂町の世帯の構成について、平成27年国勢調査でみると核家族世帯が8,254世帯(62.6%)、単独世帯が3,768世帯(28.6%)でした。単独世帯のうち、65歳以上の単身世帯は1,226世帯(単独世帯の32.5%)となっています。

瑞穂町の世帯類型

(単位：実数：世帯数、構成比：%)

	総数	親族世帯							非親族世帯	単独世帯	65歳以上単身世帯
		総数	核家族世帯				その他の親族世帯				
			総数	夫婦のみ	夫婦と子ども	男親と子ども		女親と子ども			
実数	13,179	9,276	8,254	2,716	4,094	238	1,206	1,022	132	3,768	1,226
構成比	100.0	70.4	62.6	20.6	31.1	1.8	9.2	7.8	1.0	28.6	9.3

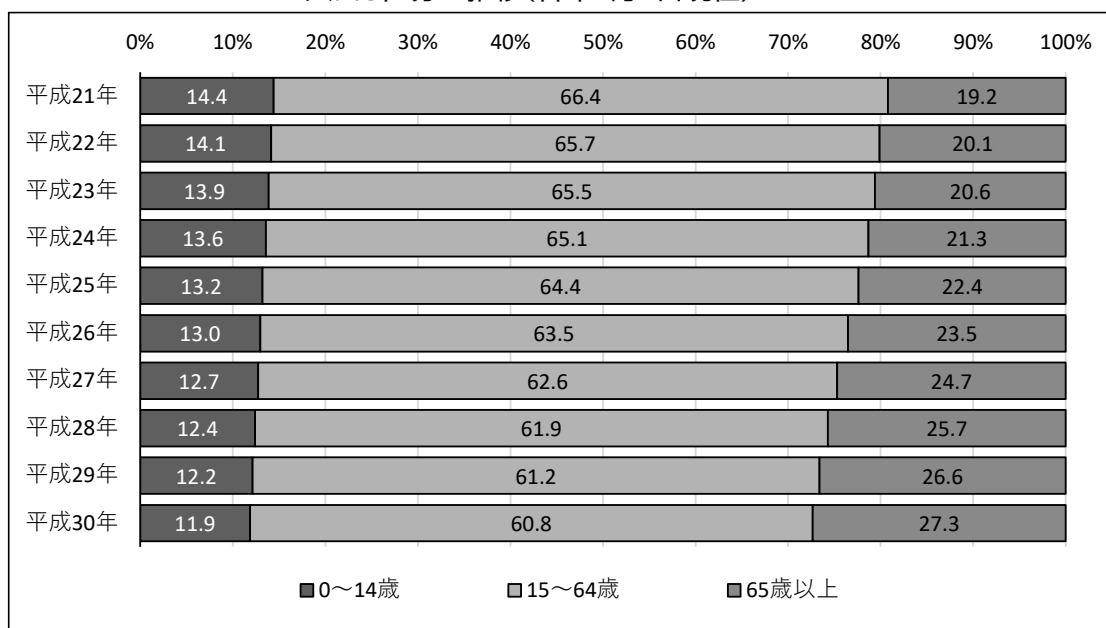
注：総数は、「不詳」を含む。

出典：国勢調査、東京都総務局統計部「平成27年東京都区市町村町丁別報告」(平成30年1月26日東京都総務局ホームページ確認)

(3) 年齢階層別人口(人口3区分)

瑞穂町の年齢階層別人口の推移を見ると、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口が減少し、65歳以上の老年人口が増加傾向にあります。

人口3区分の推移(各年1月1日現在)



出典：東京都総務局統計部「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成30年1月)

(4) 出生について

① 出生数・出生率

瑞穂町の出生数は2014(平成26)年の222人をピークに緩やかに減少を続けていましたが、令和元年には154人と急激に落ち込みました。

人口千人当たりの出生率を東京都と比較すると、東京都に比べて2～3ポイント小さい数字で推移しています。

瑞穂町の出生数の推移

単位：人

年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
瑞穂町	219	213	213	210	222	207	211	192	183	154

瑞穂町の出生率の推移(人口千人当たり)

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
東京都	8.4	8.2	8.3	8.5	8.5	8.6	8.5	8.2	8.0	7.6
瑞穂町	6.6	6.4	6.4	6.3	6.7	6.3	6.3	5.8	5.6	4.7

出典：東京都保健局「出生数・出生率 年次別推移(区市町村別)」

② 合計特殊出生率

瑞穂町の合計特殊出生率は、2011(平成23)年の1.15を底にして、再び上昇傾向を続け、東京都よりも高い数値で推移してきました。しかし、2019(令和元)年は1.08と急激に落ち込んでいます。

瑞穂町の合計特殊出生数の推移

年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
東京都	1.12	1.06	1.09	1.13	1.15	1.24	1.24	1.21	1.20	1.15
瑞穂町	1.16	1.15	1.20	1.20	1.29	1.23	1.30	1.21	1.24	1.08

出典：東京都保健局「合計特殊出生率 年次別推移(区市町村別)」

(5) 死亡について

瑞穂町の死亡数はおおむね年間350人強で推移しています。町の人口千人当たりの死亡率は11.0%前後で横ばいとなっていますが、東京都と比べると2～3ポイント程度高く推移しています。

平成27年厚生労働省「市区町村別生命表」による町の平均寿命は、男性は80.6歳(全国80.8歳、東京都81.1歳)、女性は86.6歳(全国87.0歳、東京都87.3歳)と、男女ともに全国及び東京都と比べても低い数値となっています。

瑞穂町の死亡数

単位：人

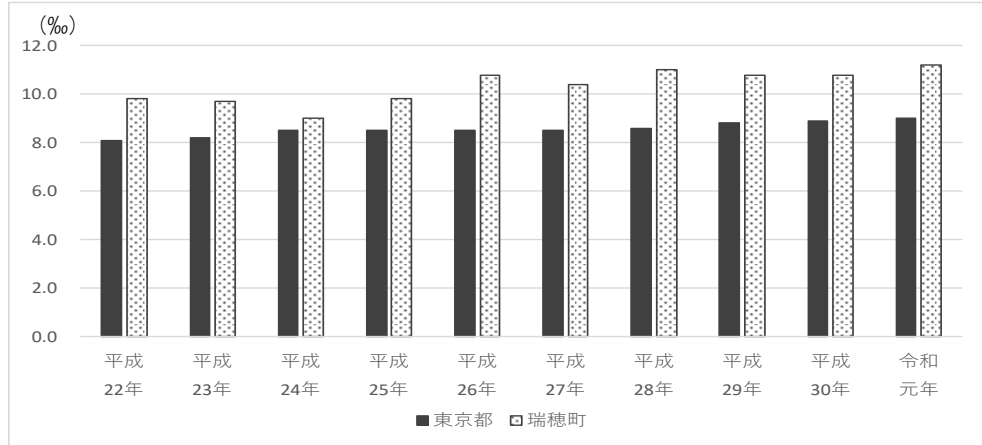
	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
瑞穂町	325	323	297	324	358	343	366	357	356	363

出典：東京都保健局「死亡数・死亡率 年次別推移(区市町村別)」

東京都と瑞穂町の人口千人あたり死亡率比較

単位:%

	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年
東京都	8.1	8.2	8.5	8.5	8.5	8.5	8.6	8.8	8.9	9.0
瑞穂町	9.8	9.7	9.0	9.8	10.8	10.4	11.0	10.8	10.8	11.2



出典:東京都保健局「死亡数・死亡率 年次別推移(区市町村別)」

(6) 外国人人口

瑞穂町の外国人人口は増加の傾向にあり、2014(平成26)年から2018(平成30)年の4年間で1.45倍の768人となっています。国別では、フィリピン、その他の国、ベトナム、中国の順に多く、この4国で56.8%を占めています。

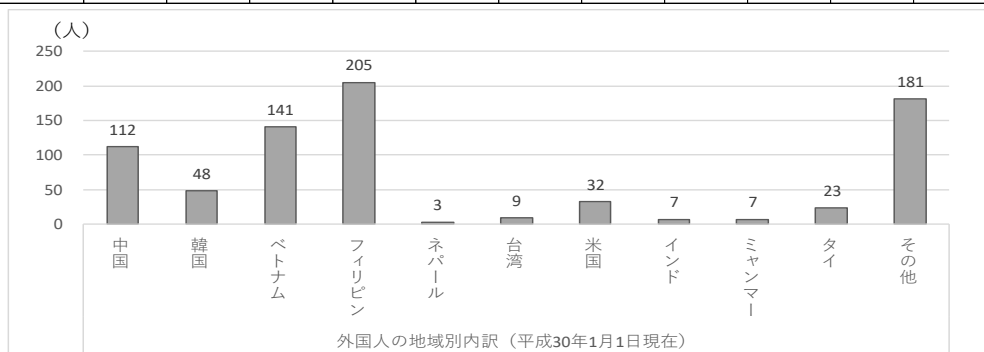
瑞穂町の外国人人口(各年1月1日現在)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
人数	527	554	637	675	768

出典:東京都総務局統計部「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成30年1月)

外国人人口 国別(平成30年1月1日現在)

国名	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ネパール	台湾	米国	インド	ミャンマー	タイ	その他
人数	112	48	141	205	3	9	32	7	7	23	181



出典:東京都総務局統計部「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成30年1月)

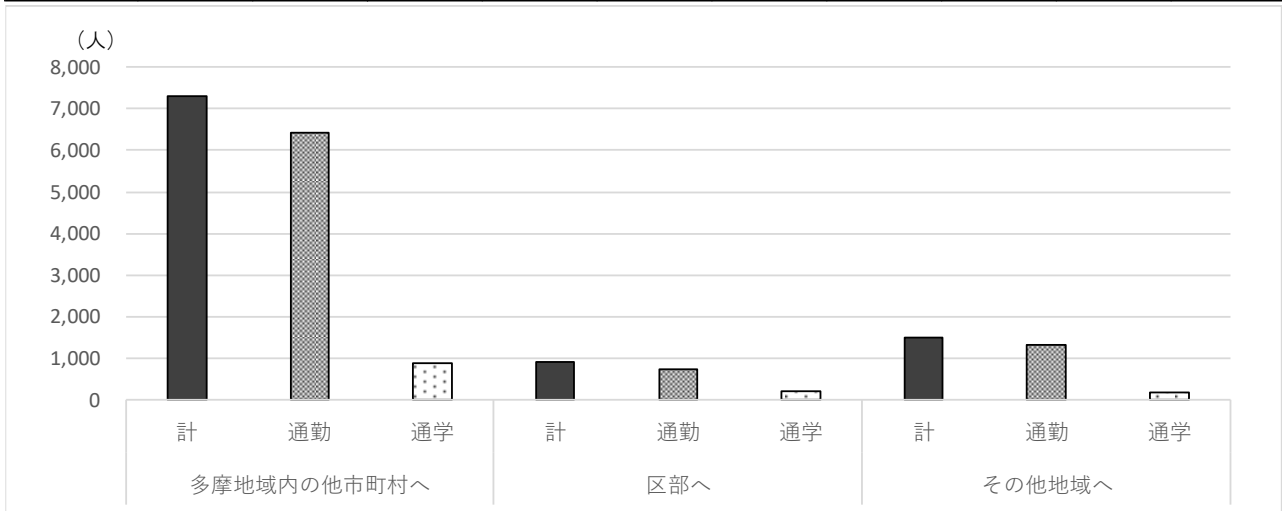
(7) 15歳以上の自宅外通勤通学者流出人口

瑞穂町の15歳以上の人口29,136人(平成27年国勢調査)の内、流出人口は33.3%の9,702人でした。

流出先を地域別で見ると、多摩地域内の他市町村への流出が一番多く、次いでその他地域(主に埼玉県)となり、区部への流出は少ないことがわかります。

瑞穂町の15歳以上の自宅外通勤通学者流出人口(平成27年10月1日)

流出先	多摩地域内の他市町村へ			区部へ			その他地域へ			流出人口 (計)
	計	通勤	通学	計	通勤	通学	計	通勤	通学	
人数	7,309	6,429	880	915	719	196	1,478	1,302	176	9,702



出典:国勢調査「平成27年国勢調査東京都報告書」

(8) 昼間人口と夜間人口

瑞穂町では、夜間人口33,445人に対して昼間人口は36,767人となり、昼間人口指数は109.9と、多摩周辺市町村と比べて見ても、立川市に次いで高い数値となっています。

町の昼間人口は、2010(平成22)年と比較して増加しています。

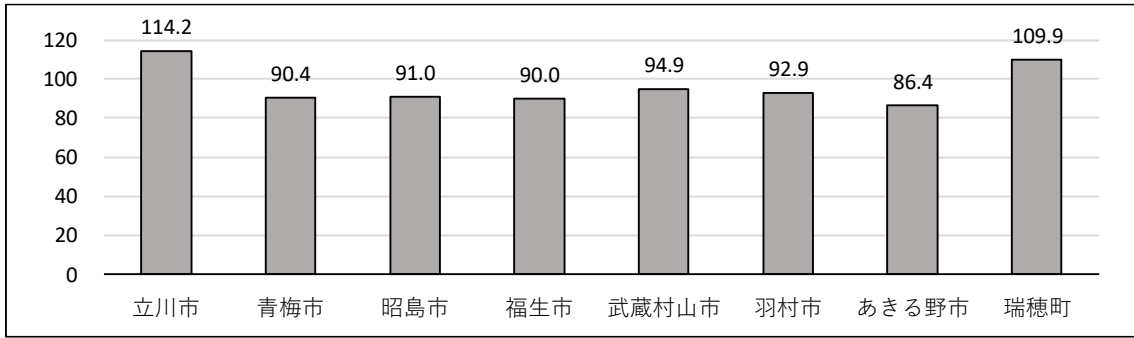
都の将来推計によると、町の昼間人口比率は2040(令和22)年には113.1まで増加すると予測され、人口規模に比して産業基盤が強く、人口流入がある自治体としての特徴を有し、地域経済を支える核となっています。

昼間人口と夜間人口

	昼間人口	平成22年との比較		昼間人口密度 (1km ² 当たり)	流入超過人口 (-は流出超過)	常住人口	昼間人口指数 (常住人口=100)
		増減人数	増減率 (%)				
瑞穂町	36,767	495	1.4	2,182	3,322	33,445	109.9

出典:東京都総務局「平成27年国勢調査による 東京都の昼間人口」

昼間人口指数 周辺市町村と比較



出典:東京都総務局「平成27年国勢調査による 東京都の昼間人口」

東京都の昼間人口指数の予測(周辺市との比較)

自治体名	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
立川市	114.2	113.2	112.8	112.1	111.4	111.0
青梅市	90.4	90.8	91.1	91.5	91.9	92.4
昭島市	91.0	91.0	91.2	91.5	91.8	92.1
福生市	90.0	90.2	91.0	92.0	93.5	95.6
武蔵村山市	94.9	94.9	94.8	94.9	95.1	95.2
羽村市	92.9	93.2	93.4	93.8	93.9	93.8
あきる野市	86.4	86.5	86.5	86.5	86.4	86.4
瑞穂町	109.9	110.9	111.3	111.8	112.4	113.1

出典:東京都総務局統計部人口統計課「東京都昼間人口の予測」(令和2年3月)

3) 将来人口の推計

瑞穂町の人口は、2005(平成17)年をピークにしばらく横ばい状況が続いていましたが、令和2(2020)年以降は顕著な減少傾向が続くと推計されています。

しかし、今後の土地区画整理事業の進展、多摩都市モノレール延伸にかかわる影響や子育て支援策等による人口増を見込み、今後40年間の人口フレームを設定しました。

その結果、瑞穂町の将来人口を2030(令和12)年には32,825人、2045(令和27)年に32,951人とピークを迎え、その後緩やかに減少し、2060(令和42)年には31,728人と設定します。

(1) 推計方法

人口推計はコーホート要因法を使用し、社人研の推計方法と類似の方法で行いました。

(2) 推計の基礎となる人口データについて

① 使用するデータ住民基本台帳

推計の基本となるデータは基本的に、①直近で得られること、②動向を見る上では各年で得られる

こと、③男女別年齢別で得られることが重要と考えます。

国勢調査人口は最新データが2015(平成27)年と古く、その後、瑞穂町の人口が横ばい傾向から減少傾向に転じた内容が反映されていないことなどから使用しないこととしました。近年の人口減少動向の内容が反映され、直近までのデータが得られる住民基本台帳人口を基に使用し、推計することとしました。

② 推計時点

推計の基準は10月1日時点とし、各年10月1日住民基本台帳データを使用しました。基準の10月1日は年度中間ということになり、年度の人口を推計するのに適切と考えます。

③ 外国人について

外国人に対しての出生数(合計特殊出生率)、死亡数、社会移動数の数値データは把握できないため、日本人と外国人を含めた集合体として推計することとしています。

(3) 原単位数値等の設定

① 男女別年齢別の死亡率の設定

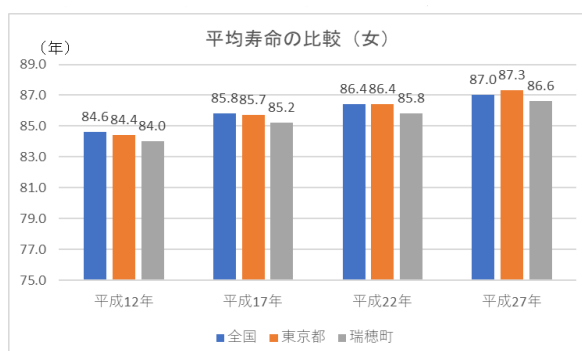
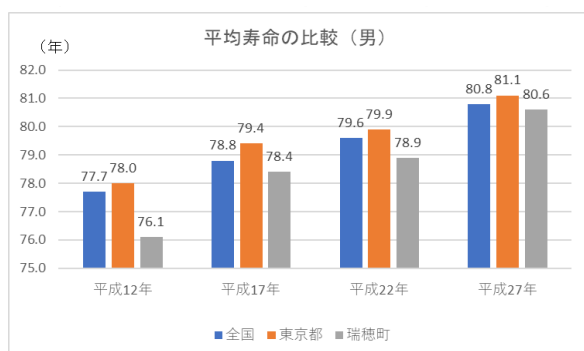
全国と瑞穂町の死亡率の差異を完全生命表(5年ごと作成の生命表)で比較してみると、2000(平成12)年に男が全国77.7歳、町76.1歳と差は1.6歳あったのが、2015(平成27)年には、全国80.8歳、町80.6歳と差は0.2歳となり、ほぼ差はなくなってきています。女では2000(平成12)年全国84.6歳、町84.0歳とその差は0.6歳、2015(平成27)年には全国87.0歳、町86.6歳とその差は0.4歳とほぼ同じです。このことから、瑞穂町の平均寿命は2015(平成27)年時点よりも伸びていることが想定されます。そのため、完全生命表のデータは古く使用には不適と考えます。

近年の町の平均寿命は、全国の数値に近似しつつあると考えられ、将来的には死亡率が全国と並ぶことが想定されことから、毎年公表される全国簡易生命表の2018(平成30)年版を使用することとしました。

平均寿命 比較

地域 年	全国		東京都		瑞穂町	
	男	女	男	女	男	女
平成27年 (2015年)	80.8	87.0	81.1	87.3	80.6	86.6
平成22年 (2010年)	79.6	86.4	79.9	86.4	78.9	85.8
平成17年 (2005年)	78.8	85.8	79.4	85.7	78.4	85.2
平成12年 (2000年)	77.7	84.6	78.0	84.4	76.1	84.0

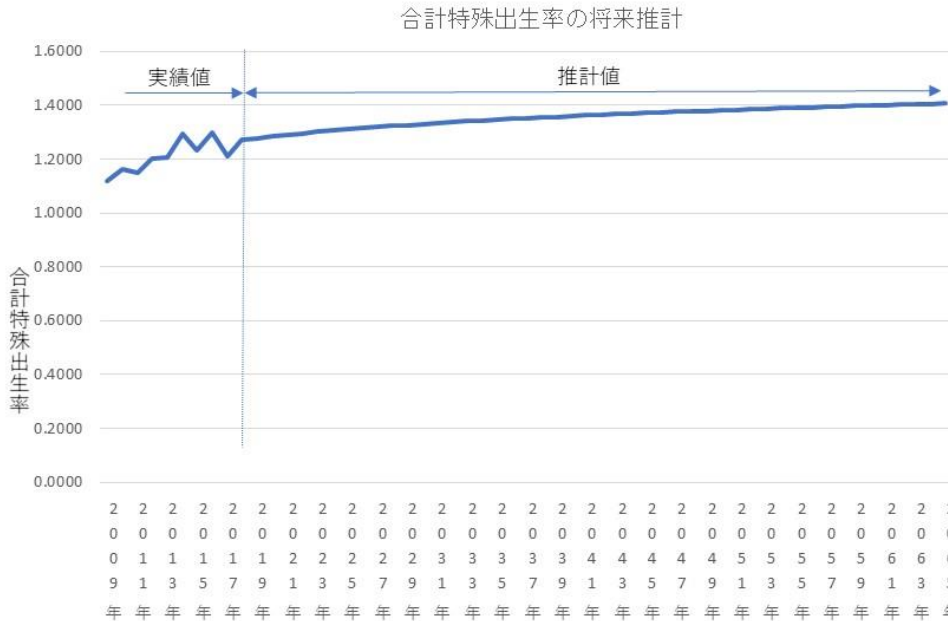
出典：厚生労働省大臣官房統計情報部「市区町村別生命表の概況」統計表より作成



② 合計特殊出生率の設定

将来における瑞穂町の合計特殊出生率については、統計的な手法により数値を導き使用しました。(具体的には、過去の町の合計特殊出生率から、直線、2次関数、平方根、対数、べき乗、指数、ロジステック、ゴンベルツの8式の回帰分析を行い、重相関係数の最も高いべき乗式から将来の合計特殊出生率を求め、それを使用しています。)

瑞穂町の将来合計特殊出生率の推計値



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	
瑞穂町合計特殊出生率の推計	1.2843	1.2903	1.2959	1.3012	1.3061	1.3107	1.3151	1.3192	1.3232	1.3270	1.3306	1.3340	1.3373	1.3405	1.3436	
	2035年	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年	2049年	
	1.3466	1.3494	1.3522	1.3549	1.3575	1.3600	1.3624	1.3648	1.3671	1.3694	1.3716	1.3737	1.3758	1.3778	1.3798	
	2050年	2051年	2052年	2053年	2054年	2055年	2056年	2057年	2058年	2059年	2060年	2061年	2062年	2063年	2064年	2065年
	1.3817	1.3836	1.3855	1.3873	1.3891	1.3908	1.3926	1.3942	1.3959	1.3975	1.3991	1.4006	1.4022	1.4037	1.4051	1.4066

③ 合計特殊出生率から出生数を求める算定式

国が発表した算式に準じ、算式は以下の計算方法によりました。

国の算式

$$\text{出生数} = \frac{\text{女性人口 (15~49歳)}}{\text{35}^{1)}} \times \text{(期間)合計特殊出生率} \times \text{(15~49歳女性人口の年齢構成の違い}^{2)})$$

注 1): (期間)合計特殊出生率は15~49歳までの35個の年齢別出生率を加えたものであるため、女性人口(15~49歳)を乗じて出生数となるように35で除している。
 2): 「年齢構成の違い」は、「女性人口」×「合計特殊出生率」/35が「15~49歳のどの年齢の女性の人数も同じとした場合に当該合計特殊出生率で見込まれる出生数」となることから、「実際の年齢構成がどの年齢の女性の人数も同じという年齢構成とどのくらい違うか表すもの」である。出生率の高い年齢層に女性の人数が相対的に多くなっている場合には、「年齢構成の違い」は概ね1より大きくなる。
 出典: 厚生労働省「簡易生命表」(平成28年)の附属資料「合計特殊出生率について」

(参考) 「年齢構成の違い」の設定

「年齢構成の違い」は、国では都道府県及び区市町村の値は公表されていません。しかし、過去の

各年瑞穂町の女子人口(15～49歳)、出生数、合計特殊出生率のデータを基に「年齢の違い」を求めることができます。求められる過去における町の「年齢の違い」の数値は以下のようになりました。

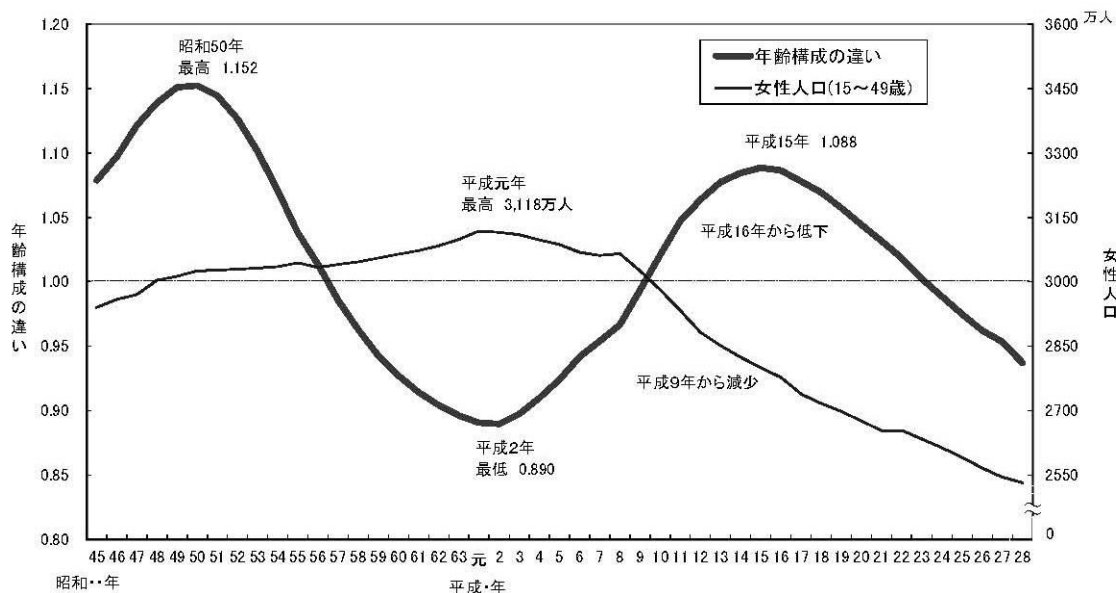
瑞穂町「年齢構成の違い」の過去の数値(実績値)

年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
瑞穂町 年齢の違い推移	0.98501	0.95124	0.93728	0.8861	0.878186	0.869869	0.860325	0.841845	0.839494

求められた数値から将来の数値を予測すると、一貫して減少傾向をたどり、将来の出生数が0になることが想定される数値に近づき現実的とは言えないものとなりました。

公表された我が国の「年齢の違い」の推移(昭和45年以降)は0.890を底にして再び上昇したことがわかります。瑞穂町の場合にも、どこかで底を打ち反転することが想定されます。今後、多摩都市モノレールの延伸により転入する人々は若年ファミリー層が多いと想定でき、この数値は改善することが見込まれます。そのようなことから、2017(平成29)年の0.83で推移としました。

「女性人口(15～49歳)」と「年齢構成の違い」の動向



出典:平成 28 年度人口動態統計月報年計(概数)の概況『参考:出生数の動向と(期間)合計特殊出生率の動向の関係』厚生労働省

④ 出生性比

出生性比(男女比)は、過去10年間の平均値から求めました。

瑞穂町の出生性比

出生児	男比	51.8%
	女比	48.2%

出典:東京都人口動態年報

⑤ 男女年齢別の社会移動率の設定

社会移動数(率)の計算は、当該年度(男女年齢別)の人口と死亡数との関係で推計することが出来ます。

- ・死亡数は、各年齢の死亡率(a)に当該年齢の人口(b)を掛けることで死亡数(c)、 $(c) = (a) \times (b)$
- ・その年の生存した当該年齢の人口(生存数) $= (b) - (c)$
- ・翌年のプラス1歳になった時の人口(d)は、 $(d) = \text{社会移動数}(e) + (b) - (c)$
- ・当該年齢の翌年まで1年間の社会移動数は、 $(e) = (d) - \{(b) - (c)\}$
- ・当該年齢の社会移動率(e') $= (e) / \{(b) - (c)\}$

この方法から、過去10年間の年齢別男女社会移動率を求め、その平均値を基本となる年齢別男女社会移動率とした。そして、多摩都市モノレールの延伸による影響から年齢別男女社会移動率を調整し、使用しました。

(4) 人口推計結果

人口推計は、以下の2つケースを想定して行いました。

- 1)現状のトレンドによる推計結果(パターンA)、
- 2)多摩都市モノレールの延伸が実施された場合(パターンB)

① 現状のトレンドによる推計：多摩都市モノレール開発なしの場合

【考え方】

トレンドによる推計とは、原単位で求められた数値を使用して、瑞穂町に大きな変化がなく、このまま将来にわたって推移した場合の将来人口となります。

推計の内容としては、この10年間の人口動向の傾向が色濃く反映した内容となります。

【推計結果】

瑞穂町の総人口は20年後の2040(令和22)年には約2万7千人、40年後の2060(令和42)年には約2万人となり、現人口の約6割程度まで減少することとなりました。

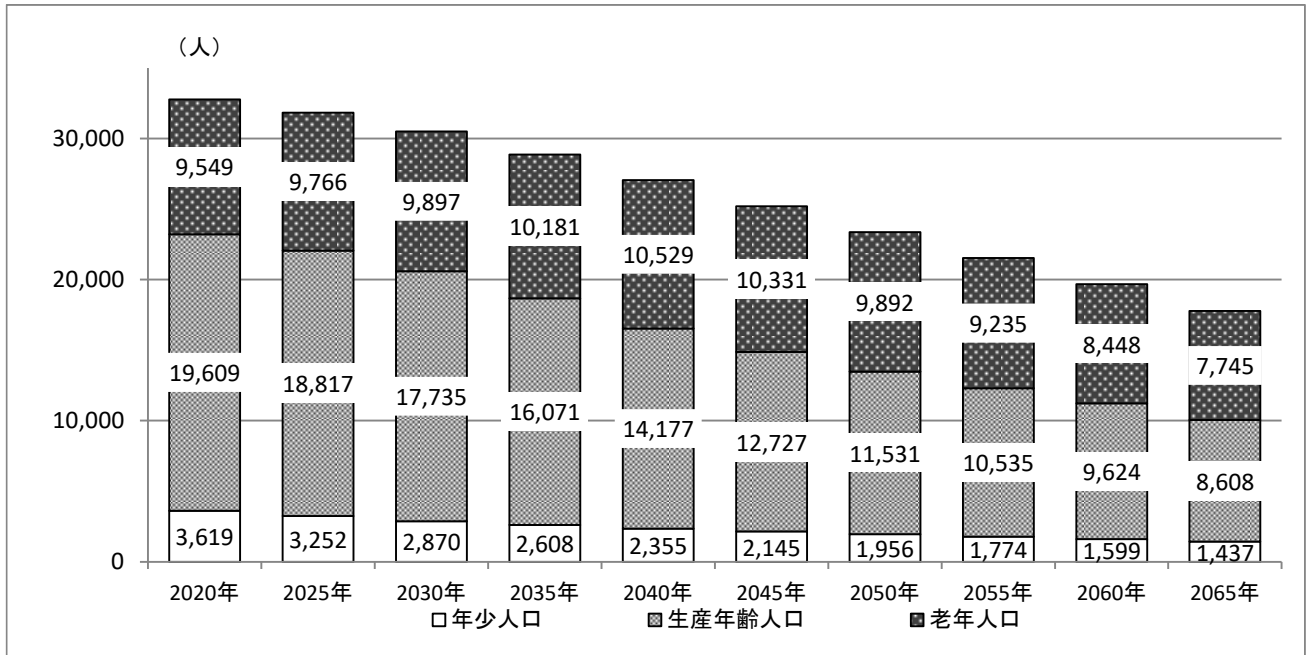
高齢者の人口比率は現在の28.7%が、20年後の2040(令和22)年には約39%、40年後の2060(令和42)年には約43%となり、高齢化の状況は深刻となります。

また、年少人口も現在の11.3%が、20年後の2040(令和22)年には8.7%、40年後の2060(令和42)年には8.1%と大きく減少することとなりました。

総人口と人口3区分の推移

	実数	予測値									
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
老年人口	9,432	9,549	9,766	9,897	10,181	10,529	10,331	9,892	9,235	8,448	7,745
生産年齢人口	19,752	19,609	18,817	17,735	16,071	14,177	12,727	11,531	10,535	9,624	8,608
年少人口	3,724	3,619	3,252	2,870	2,608	2,355	2,145	1,956	1,774	1,599	1,437
総人口	32,908	32,777	31,834	30,502	28,860	27,061	25,202	23,379	21,544	19,671	17,790
老年人口	28.7%	29.1%	30.7%	32.4%	35.3%	38.9%	41.0%	42.3%	42.9%	42.9%	43.5%
生産年齢人口	60.0%	59.8%	59.1%	58.1%	55.7%	52.4%	50.5%	49.3%	48.9%	48.9%	48.4%
年少人口	11.3%	11.0%	10.2%	9.4%	9.0%	8.7%	8.5%	8.4%	8.2%	8.1%	8.1%
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

総人口と人口3区分の推移

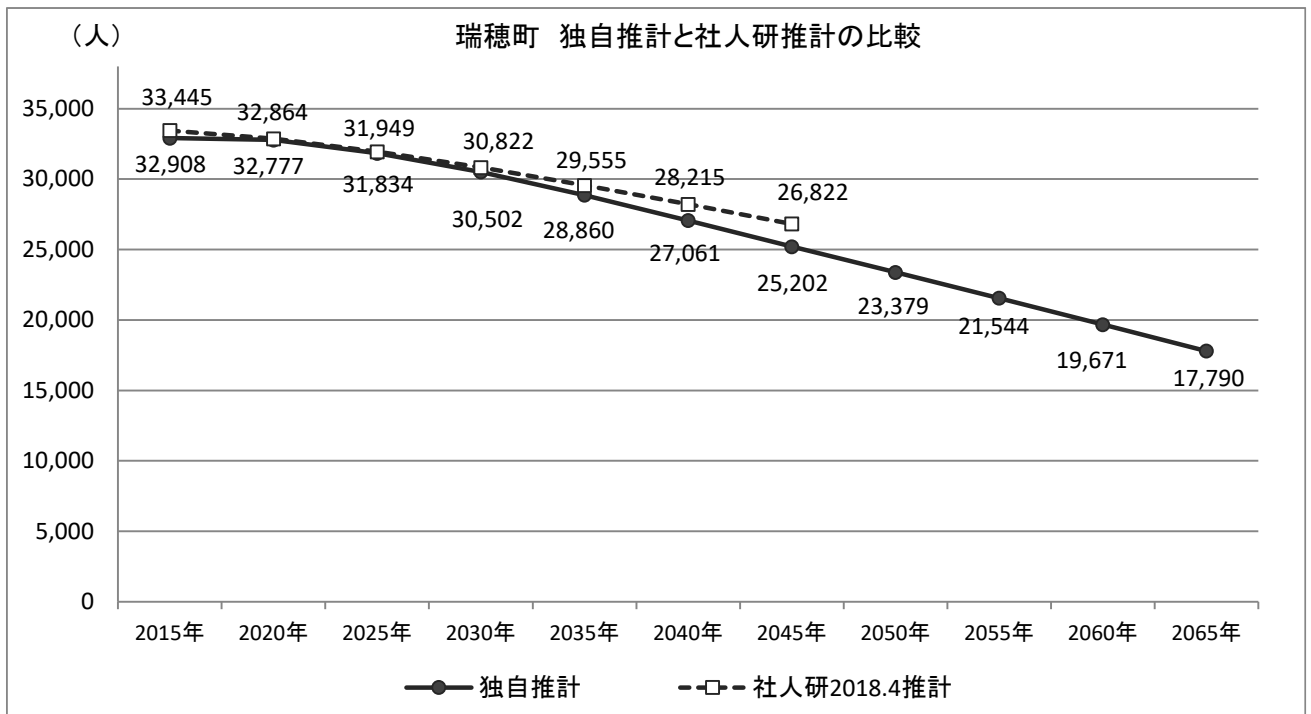


【社人研推計との比較】

多摩都市モノレール開発なしの場合と社人研(2018年(平成30年4月))「日本の地区別将来推計」の瑞穂町との比較を下図に示しました。

社人研のものに比べると人口の減少傾向が大きくなりました。この要因は、社人研の推計では、2015(平成27)年までの国勢調査人口を基にしているため、減少傾向の影響が小さい推計結果となっています。

町の人口減少が大きくなるのは、2015(平成27)年以降です。町独自の推計では、2009(平成21)年～2019(令和元)年までの人口データから推計しているために、減少傾向が大きく反映した結果となりました。

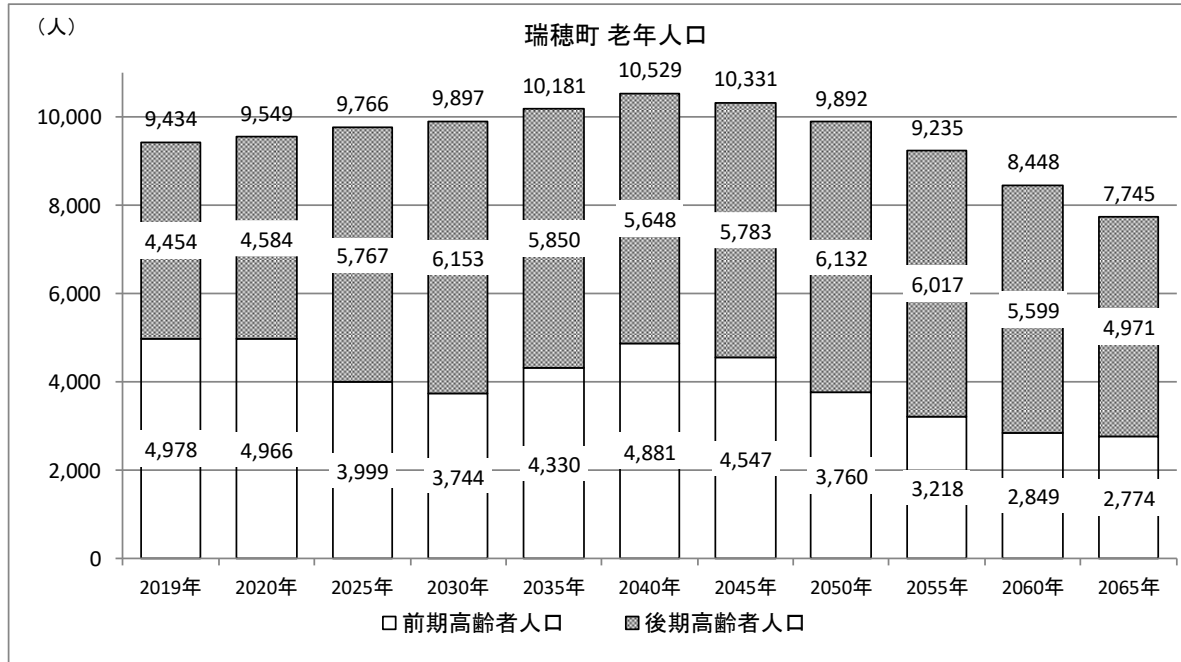


【主要人口指標の推計値】

主な人口指標の推計結果は以下の通りです。

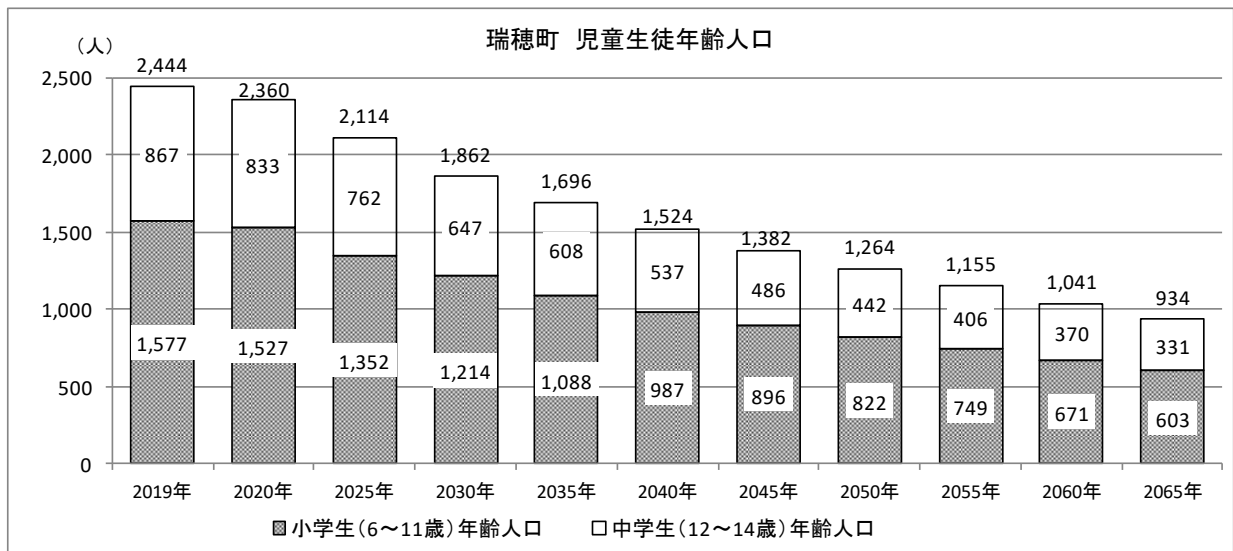
▼老年人口

	実数	予測値									
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
前期高齢者人口	4,978	4,966	3,999	3,744	4,330	4,881	4,547	3,760	3,218	2,849	2,774
後期高齢者人口	4,454	4,584	5,767	6,153	5,850	5,648	5,783	6,132	6,017	5,599	4,971
老年人口	9,434	9,549	9,766	9,897	10,181	10,529	10,331	9,892	9,235	8,448	7,745



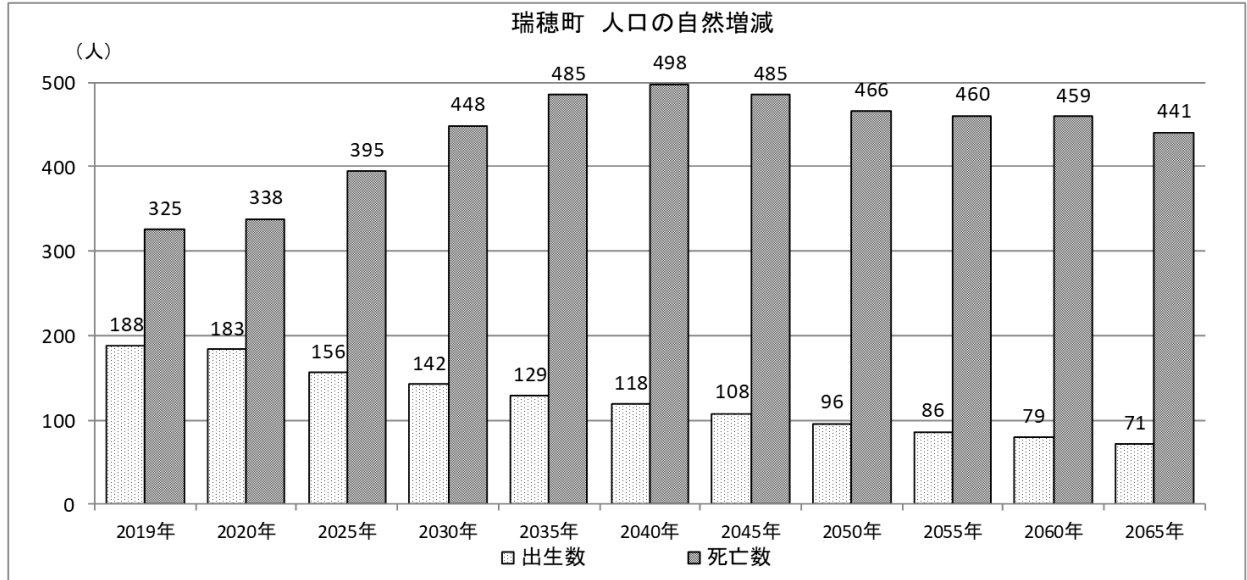
▼小・中学校児童生徒

	実数	予測値									
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
小学生(6~11歳)年齢人口	1,577	1,527	1,352	1,214	1,088	987	896	822	749	671	603
増減率	—	-3.2%	-11.4%	-10.2%	-10.4%	-9.3%	-9.3%	-8.2%	-8.8%	-10.5%	-10.1%
中学生(12~14歳)年齢人口	867	833	762	647	608	537	486	442	406	370	331
増減率	—	-3.9%	-8.5%	-15.0%	-6.1%	-11.7%	-9.3%	-9.1%	-8.2%	-8.9%	-10.4%
児童生徒年齢人口総数	2,444	2,360	2,114	1,862	1,696	1,524	1,382	1,264	1,155	1,041	934
増減率	—	-3.4%	-10.4%	-12.0%	-8.9%	-10.1%	-9.3%	-8.5%	-8.6%	-9.9%	-10.2%



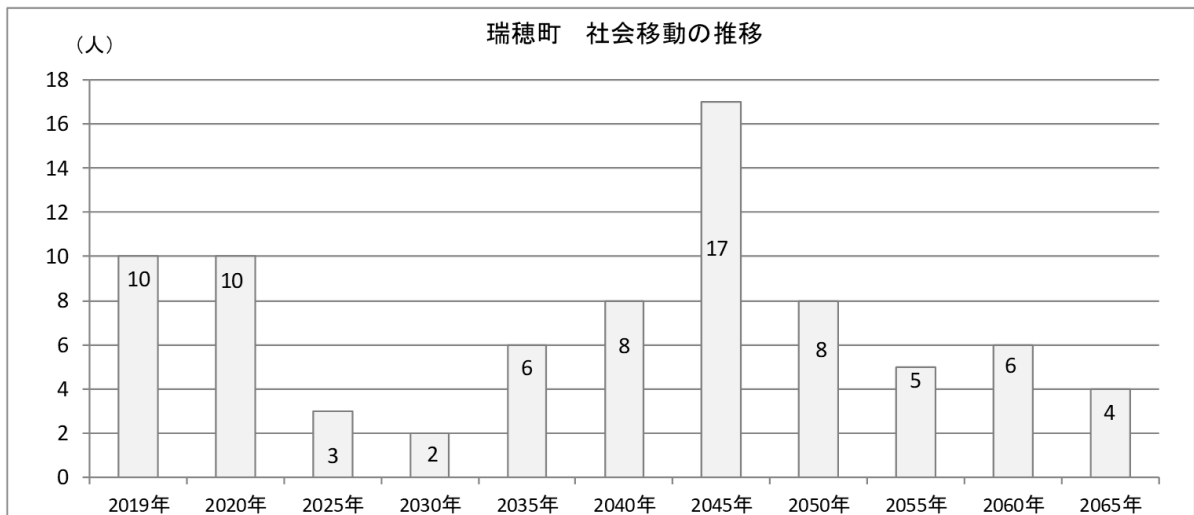
▼人口自然増減

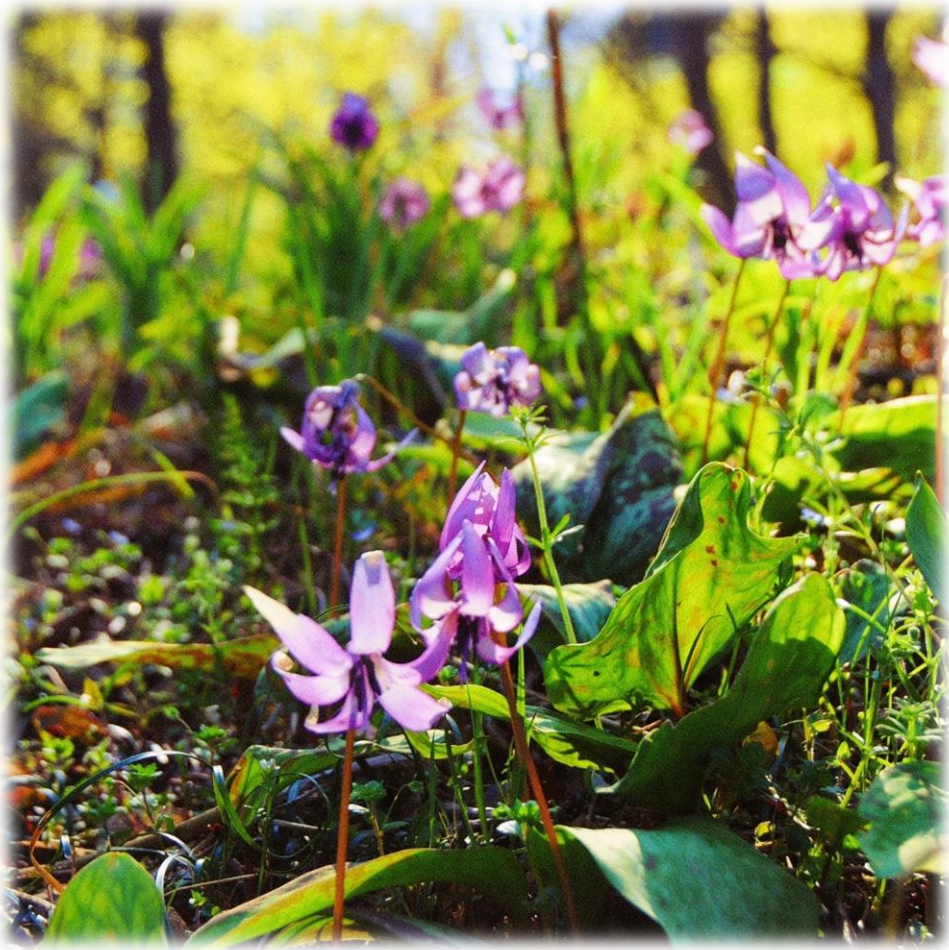
	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
出生数	188	183	156	142	129	118	108	96	86	79	71
増減率	—	-2.7%	-14.8%	-9.0%	-9.2%	-8.5%	-8.5%	-11.1%	-10.4%	-8.1%	-10.1%
死亡数	325	338	395	448	485	498	485	466	460	459	441
増減率	—	3.9%	16.9%	13.5%	8.1%	2.7%	-2.6%	-3.9%	-1.3%	-0.2%	-4.1%
自然増減数	-137	-155	-239	-306	-356	-380	-377	-370	-374	-380	-370
増減率	—	-12.8%	-54.3%	-28.2%	-16.2%	-6.8%	0.8%	1.8%	-1.1%	-1.6%	2.8%



▼社会移動の推移

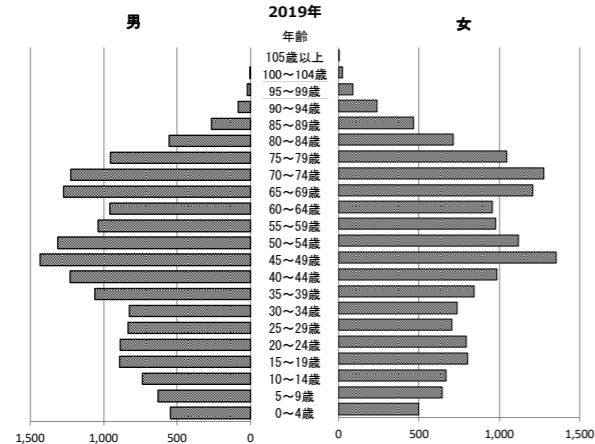
	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
社会移動の推移	10	10	3	2	6	8	17	8	5	6	4
増減率	—	0.0%	-70.0%	-33.3%	200.0%	33.3%	112.5%	-52.9%	-37.5%	20.0%	-33.3%



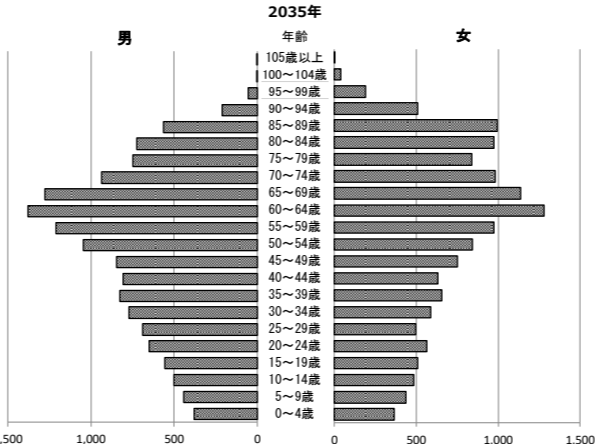


瑞穂町 推計20.02.16 人口ピラミッド (モノレール開発なし)

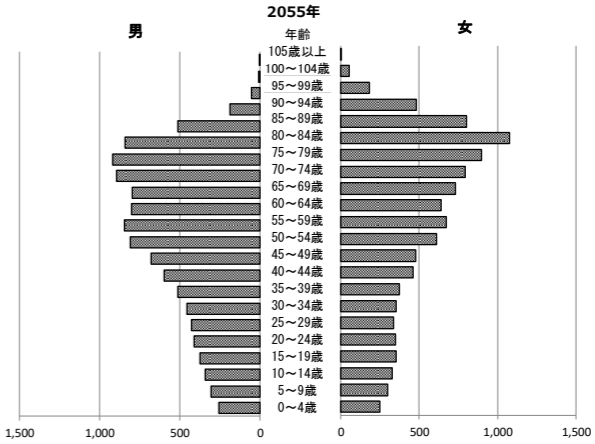
2019年		
年齢	男	女
0~4歳	547	498
5~9歳	629	643
10~14歳	737	670
15~19歳	892	801
20~24歳	887	796
25~29歳	834	706
30~34歳	827	739
35~39歳	1,058	841
40~44歳	1,230	986
45~49歳	1,434	1,355
50~54歳	1,315	1,119
55~59歳	1,040	978
60~64歳	957	956
65~69歳	1,272	1,207
70~74歳	1,223	1,277
75~79歳	953	1,047
80~84歳	556	714
85~89歳	265	467
90~94歳	82	237
95~99歳	21	89
100~104歳	0	22
105歳以上	0	1
計	16,760	16,149



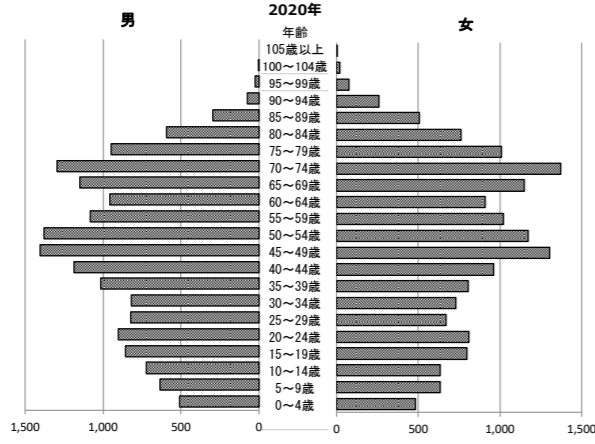
2035年		
年齢	男	女
0~4歳	378	367
5~9歳	442	436
10~14歳	502	483
15~19歳	556	509
20~24歳	651	563
25~29歳	688	495
30~34歳	770	589
35~39歳	828	655
40~44歳	807	631
45~49歳	848	751
50~54歳	1,045	842
55~59歳	1,209	975
60~64歳	1,380	1,281
65~69歳	1,276	1,136
70~74歳	936	981
75~79歳	749	839
80~84歳	725	974
85~89歳	565	995
90~94歳	209	507
95~99歳	54	189
100~104歳	4	38
105歳以上	0	2
計	14,623	14,237



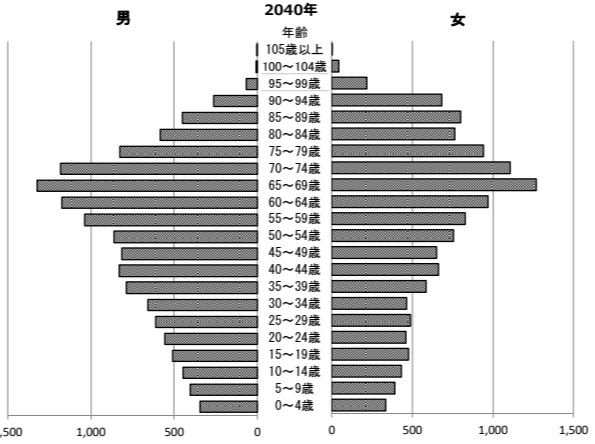
2055年		
年齢	男	女
0~4歳	256	249
5~9歳	303	299
10~14歳	340	327
15~19歳	374	353
20~24歳	412	350
25~29歳	426	337
30~34歳	456	353
35~39歳	511	373
40~44歳	598	460
45~49歳	680	479
50~54歳	810	610
55~59歳	845	672
60~64歳	799	637
65~69歳	798	732
70~74歳	894	794
75~79歳	918	897
80~84歳	842	1,077
85~89歳	512	802
90~94歳	186	481
95~99歳	53	184
100~104歳	6	54
105歳以上	0	4
計	11,020	10,524



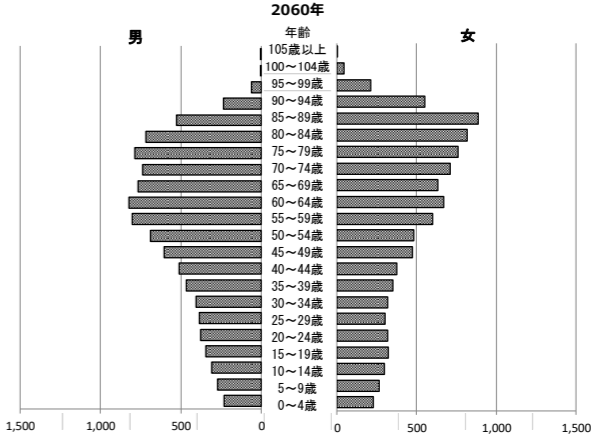
2020年		
年齢	男	女
0~4歳	511	483
5~9歳	634	632
10~14歳	723	636
15~19歳	857	797
20~24歳	903	810
25~29歳	824	669
30~34歳	820	729
35~39歳	1,016	806
40~44歳	1,186	960
45~49歳	1,406	1,304
50~54歳	1,378	1,172
55~59歳	1,084	1,022
60~64歳	958	907
65~69歳	1,151	1,147
70~74歳	1,295	1,373
75~79歳	949	1,009
80~84歳	595	763
85~89歳	298	508
90~94歳	77	260
95~99歳	25	75
100~104歳	2	31
105歳以上	0	2
計	16,692	16,086



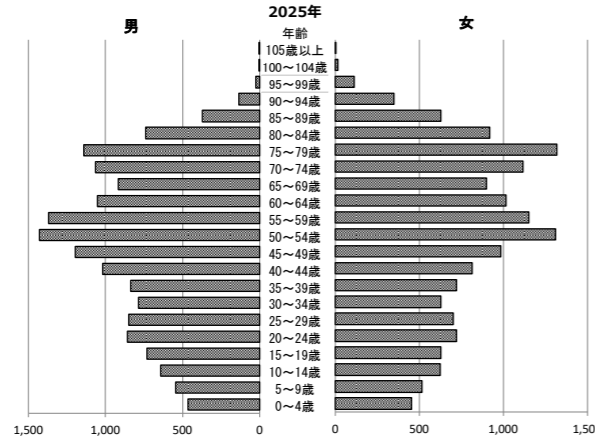
2040年		
年齢	男	女
0~4歳	344	335
5~9歳	402	393
10~14歳	448	433
15~19歳	507	479
20~24歳	556	461
25~29歳	612	488
30~34歳	657	465
35~39歳	788	584
40~44歳	829	662
45~49歳	814	649
50~54歳	862	755
55~59歳	1,038	827
60~64歳	1,174	970
65~69歳	1,323	1,269
70~74歳	1,183	1,107
75~79歳	825	941
80~84歳	585	764
85~89歳	450	800
90~94歳	260	684
95~99歳	67	219
100~104歳	6	46
105歳以上	0	2
計	13,730	13,331



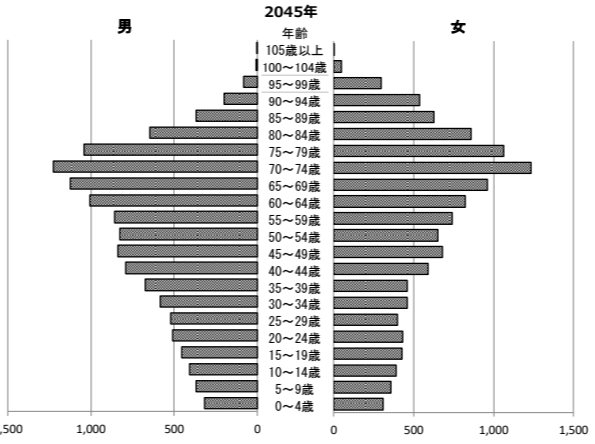
2060年		
年齢	男	女
0~4歳	230	226
5~9歳	272	267
10~14歳	307	296
15~19歳	343	324
20~24歳	375	319
25~29歳	387	303
30~34歳	407	317
35~39歳	466	351
40~44歳	512	377
45~49歳	604	473
50~54歳	691	482
55~59歳	804	599
60~64歳	821	669
65~69歳	766	632
70~74歳	739	712
75~79歳	786	761
80~84歳	717	817
85~89歳	527	885
90~94歳	234	552
95~99歳	59	210
100~104歳	5	43
105歳以上	0	3
計	10,052	9,619



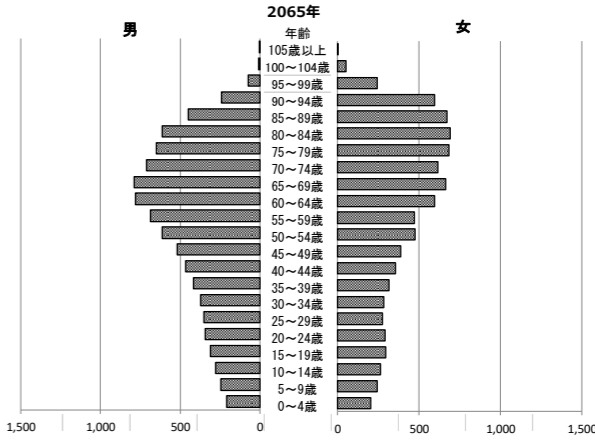
2025年		
年齢	男	女
0~4歳	467	455
5~9歳	543	518
10~14歳	642	627
15~19歳	731	629
20~24歳	858	724
25~29歳	848	703
30~34歳	787	629
35~39歳	838	723
40~44歳	1,018	815
45~49歳	1,197	986
50~54歳	1,430	1,309
55~59歳	1,369	1,152
60~64歳	1,053	1,017
65~69歳	919	899
70~74歳	1,065	1,116
75~79歳	1,142	1,318
80~84歳	741	918
85~89歳	373	628
90~94歳	136	350
95~99歳	24	114
100~104歳	3	17
105歳以上	0	1
計	16,185	15,649



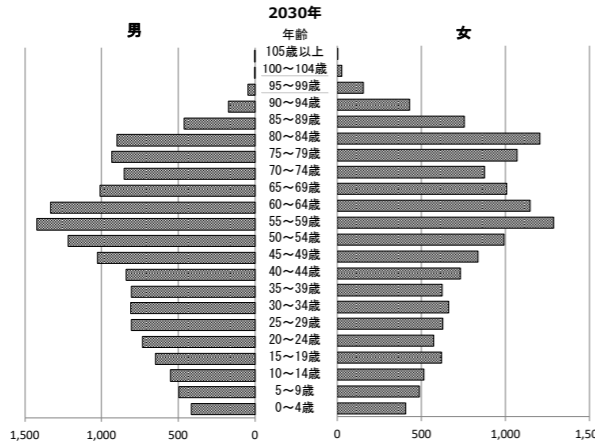
2045年		
年齢	男	女
0~4歳	316	307
5~9歳	366	359
10~14歳	407	390
15~19歳	452	429
20~24歳	508	433
25~29歳	522	400
30~34歳	584	459
35~39歳	672	461
40~44歳	790	590
45~49歳	837	681
50~54歳	828	652
55~59歳	856	742
60~64歳	1,008	823
65~69歳	1,126	961
70~74歳	1,226	1,235
75~79歳	1,042	1,063
80~84歳	646	859
85~89歳	366	628
90~94歳	200	538
95~99歳	83	299
100~104歳	7	51
105歳以上	0	3
計	12,842	12,360



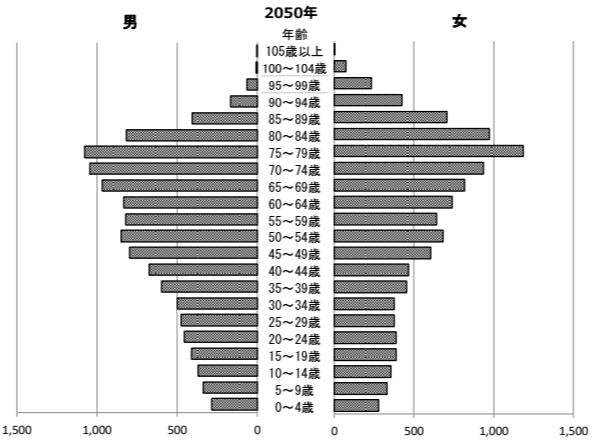
2065年		
年齢	男	女
0~4歳	208	202
5~9歳	244	242
10~14歳	275	265
15~19歳	310	294
20~24歳	344	293
25~29歳	352	277
30~34歳	369	285
35~39歳	416	314
40~44歳	467	355
45~49歳	517	387
50~54歳	614	475
55~59歳	686	473
60~64歳	781	596
65~69歳	788	663
70~74歳	709	615
75~79歳	651	683
80~84歳	612	693
85~89歳	448	671
90~94歳	239	595
95~99歳	75	244
100~104歳	6	50
105歳以上	0	3
計	9,113	8,677



2030年		
年齢	男	女
0~4歳	416	407
5~9歳	496	487
10~14歳	550	514
15~19歳	649	621
20~24歳	733	571
25~29歳	806	627
30~34歳	809	660
35~39歳	805	624
40~44歳	840	731
45~49歳	1,028	838
50~54歳	1,217	991
55~59歳	1,420	1,287
60~64歳	1,320	1,146
65~69歳	1,010	1,008
70~74歳	851	875
75~79歳	935	1,070
80~84歳	898	1,205
85~89歳	463	754
90~94歳	172	428
95~99歳	44	154
100~104歳	2	27
105歳以上	0	1
計	15,474	15,028



2050年		
年齢	男	女
0~4歳	286	279
5~9歳	336	329
10~14歳	370	356
15~19歳	411	386
20~24歳	454	388
25~29歳	477	376
30~34歳	499	376
35~39歳	597	455
40~44歳	674	466
45~49歳	797	606
50~54歳	851	684
55~59歳	822	641
60~64歳	832	739
65~69歳	966	816
70~74歳	1,043	935
75~79歳	1,078	1,184
80~84歳	816	971
85~89歳	406	707
90~94歳	167	423
95~99歳	63	234
100~104歳	9	72
105歳以上	0	3
計	11,953	11,426



② 多摩都市モノレールの延伸が実施された場合の人口推計

【考え方】

瑞穂町では、東京都が多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面への延伸に向けた基本設計に取り組み、延伸を見据えた場合の人口への影響を以下のように把握しました。

多摩都市モノレールの延伸があった立川市や東大和市のデータや他地区の事例を参考にして、社会移動の数値を設定しました。

特に、瑞穂町まち・ひと・しごと地方創生の総合戦略と前期基本計画を連動させることにより、多摩都市モノレール延伸による波及効果を早め、延伸を見通して早期の段階から土地区画整理等の開発事業を積極的に取り組み、転入人口を誘導することを前提としました。新たに開発される住宅への転入層は、ことは他地区の事例からも把握でき、そのことを推計に反映することとしました。これにより、(女)15歳～49歳のうちの20歳～35歳の若い人が増加し、出生数の推計に関係する年齢構成の違いは改善されることと規定しました。

社会移動については、過去の事例から鉄道の開通により転入する人口は20歳～50歳台の層とその子どもたちが多いことがデータから得られているため、この層の社会移動を加味して推計を行いました。社会移動率への影響は延伸前の2025(令和7)年頃から始まると想定しました。多摩都市モノレール延伸のポテンシャルを最大限に活かすこととしています。

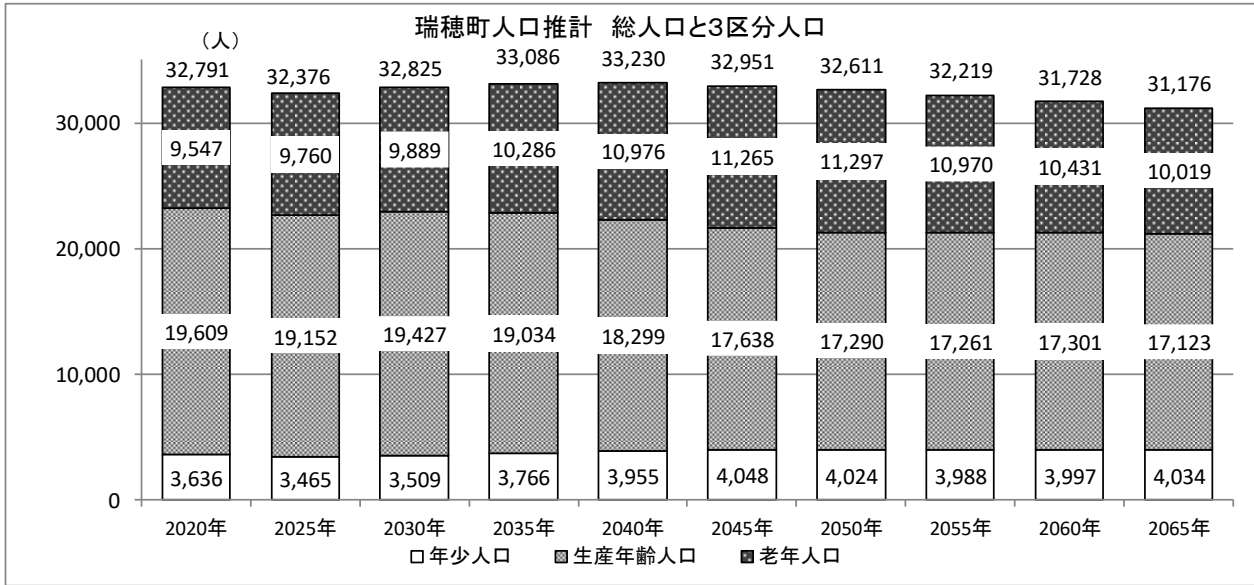
【推計結果】

瑞穂町は2025(令和7)年まで現状の人口微減傾向が続きますが、多摩都市モノレールの延伸に向けて2025年以降は町の開発誘導施策等を進めることにより、人口誘導策の波及効果が現れ微減傾向から増加傾向に転じます。

多摩都市モノレールの延伸の効果は、2030(令和12)年には32,825人となり、2045(令和27)年には32,951人とピークを迎え、その後緩やかに減少し、2060(令和42)年には31,728人という結果となりました。

▼総人口及び3区分人口の推移(多摩都市モノレール等の開発がある場合)

	実数	予測値									
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
老年人口	9,434	9,547	9,760	9,889	10,286	10,976	11,265	11,297	10,970	10,431	10,019
生産年齢人口	19,751	19,609	19,152	19,427	19,034	18,299	17,638	17,290	17,261	17,301	17,123
年少人口	3,724	3,636	3,465	3,509	3,766	3,955	4,048	4,024	3,988	3,997	4,034
総人口	32,909	32,791	32,376	32,825	33,086	33,230	32,951	32,611	32,219	31,728	31,176
老年人口	28.7%	29.1%	30.1%	30.1%	31.1%	33.0%	34.2%	34.6%	34.0%	32.9%	32.1%
生産年齢人口	60.0%	59.8%	59.2%	59.2%	57.5%	55.1%	53.5%	53.0%	53.6%	54.5%	54.9%
年少人口	11.3%	11.1%	10.7%	10.7%	11.4%	11.9%	12.3%	12.3%	12.4%	12.6%	12.9%
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



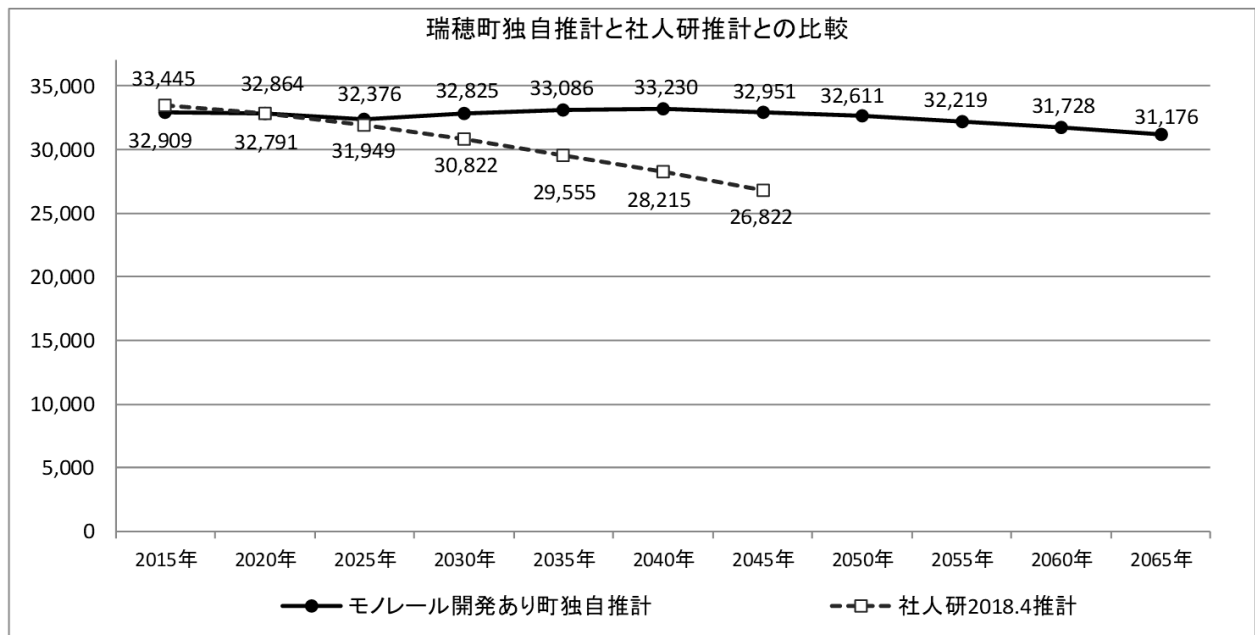
【社人研推計との比較】

多摩都市モノレール開発がある場合について、社人研（平成30（2018）年4月）の「日本の地区別将来推計」の瑞穂町と比較したものを下図に示しました。

▼瑞穂町独自推計（多摩都市モノレール等の開発）と社人研推計（2018年4月）との比較

	実数	予測値									
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
モノレール開発あり町独自推計	32,909	32,791	32,376	32,825	33,086	33,230	32,951	32,611	32,219	31,728	31,176
増減率	—	-0.4%	-1.3%	1.4%	0.8%	0.4%	-0.8%	-1.0%	-1.2%	-1.5%	-1.7%
社人研2018.4推計	33,445	32,864	31,949	30,822	29,555	28,215	26,822				
増減率	—	-1.7%	-2.8%	-3.5%	-4.1%	-4.5%	-4.9%				
差 a) - b)	-536	-73	427	2,003	3,531	5,015	6,129				

注) 社人研推計(2018.4)は、2045年までの5年間ごとの推計値である。

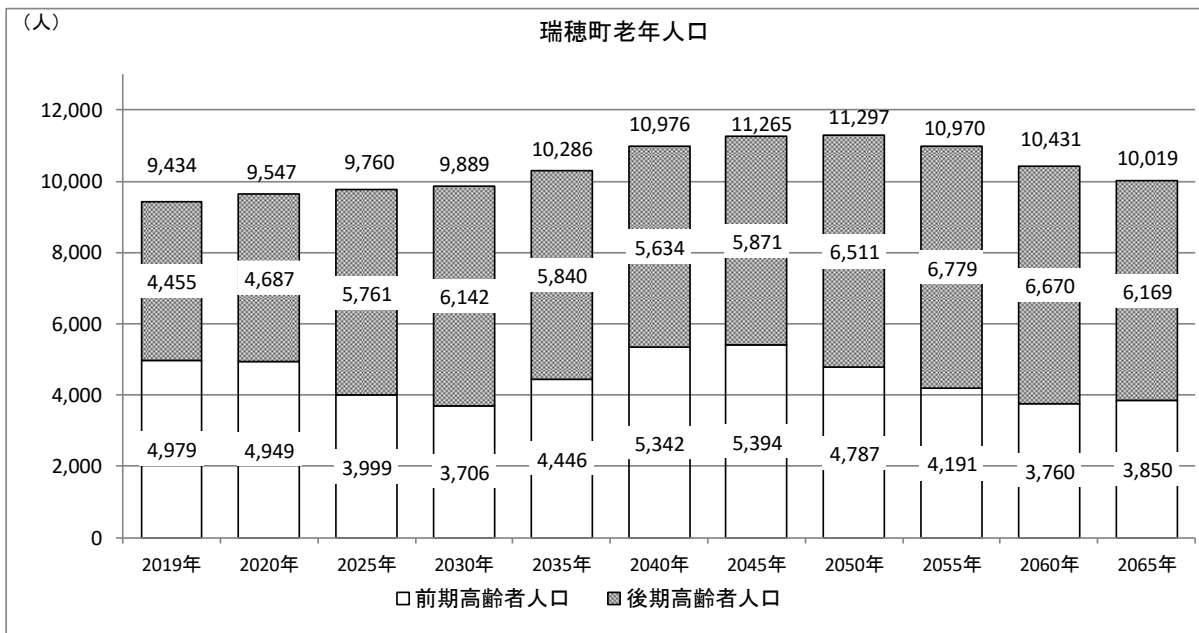


【主要人口指標の推計値】

主な人口指標の推計結果は以下の通りです。

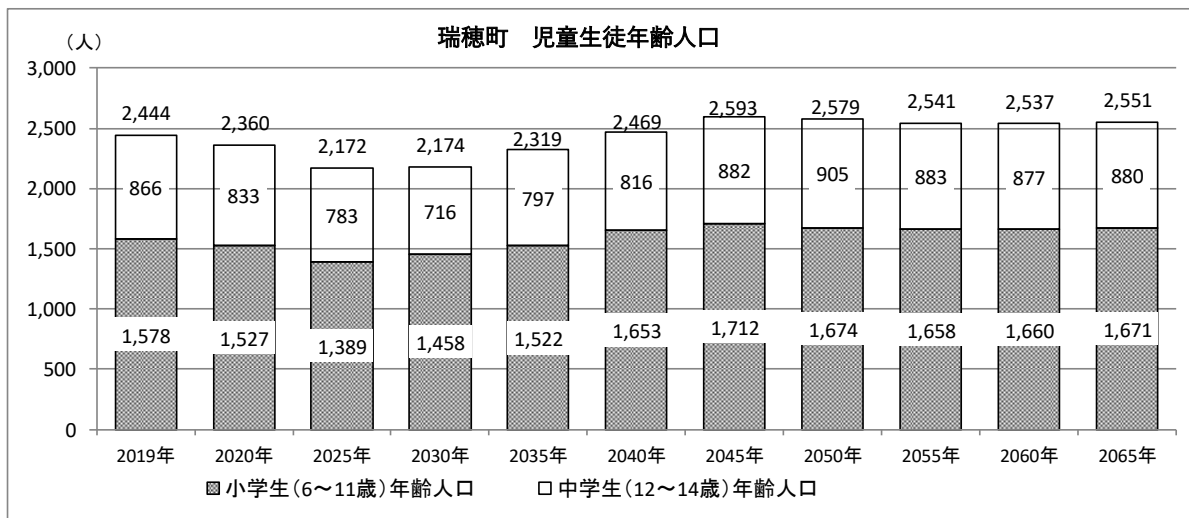
▼老年人口

	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
後期高齢者人口	4,455	4,687	5,761	6,142	5,840	5,634	5,871	6,511	6,779	6,670	6,169
前期高齢者人口	4,979	4,949	3,999	3,706	4,446	5,342	5,394	4,787	4,191	3,760	3,850
老年人口	9,434	9,547	9,760	9,889	10,286	10,976	11,265	11,297	10,970	10,431	10,019



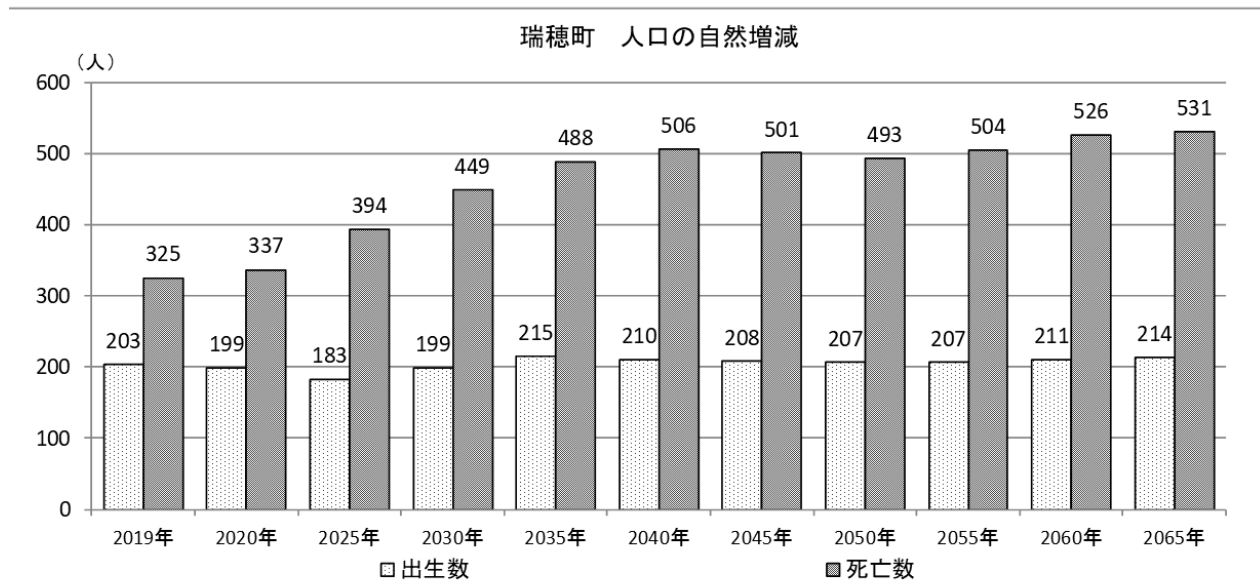
▼小・中学校児童生徒

	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
小学生(6~11歳)年齢人口	1,578	1,527	1,389	1,458	1,522	1,653	1,712	1,674	1,658	1,660	1,671
増減率	—	-3.3%	-9.0%	4.9%	4.4%	8.6%	3.6%	-2.2%	-0.9%	0.1%	0.7%
中学生(12~14歳)年齢人口	866	833	783	716	797	816	882	905	883	877	880
増減率	—	-3.8%	-6.0%	-8.5%	11.3%	2.4%	8.0%	2.6%	-2.4%	-0.6%	0.3%
児童生徒年齢人口総数	2,444	2,360	2,172	2,174	2,319	2,469	2,593	2,579	2,541	2,537	2,551
増減率	—	-3.4%	-8.0%	0.1%	6.7%	6.5%	5.0%	-0.6%	-1.5%	-0.2%	0.6%



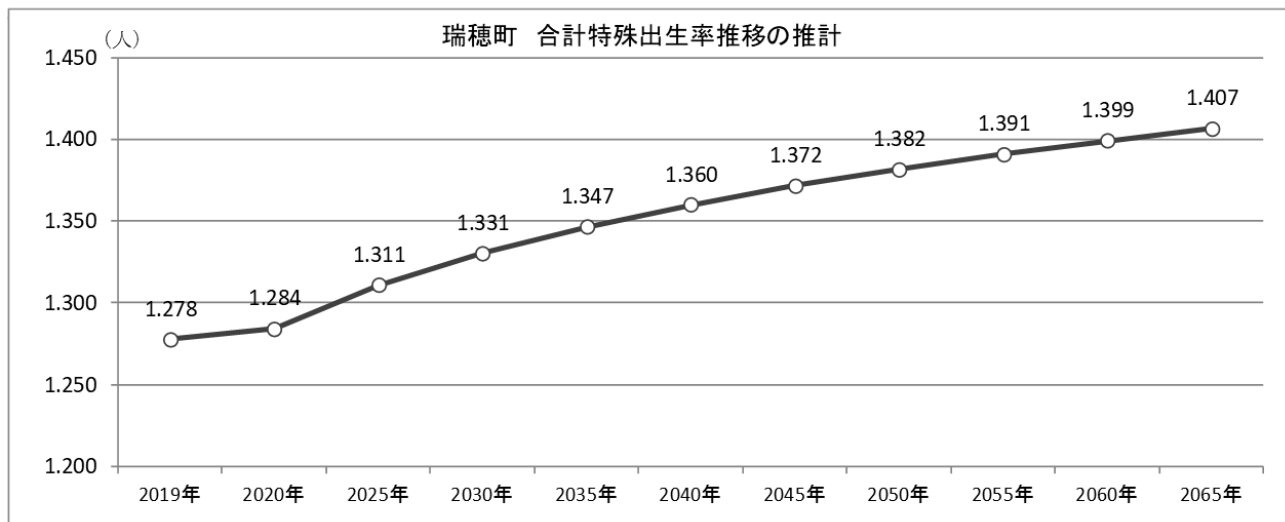
▼人口自然増減

	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
出生数	203	199	183	199	215	210	208	207	207	211	214
増減率	—	-2.0%	-8.0%	8.7%	8.0%	-2.3%	-1.0%	-0.5%	0.0%	1.9%	1.4%
死亡数	325	337	394	449	488	506	501	493	504	526	531
増減率	—	3.5%	16.9%	14.1%	8.8%	3.6%	-1.1%	-1.5%	2.2%	4.3%	0.9%
自然増減数	—	-138	-211	-250	-273	-296	-293	-286	-297	-315	-317
増減率	—	-12.6%	-52.8%	-18.8%	-9.4%	-8.3%	1.2%	2.2%	-3.8%	-5.9%	-0.6%



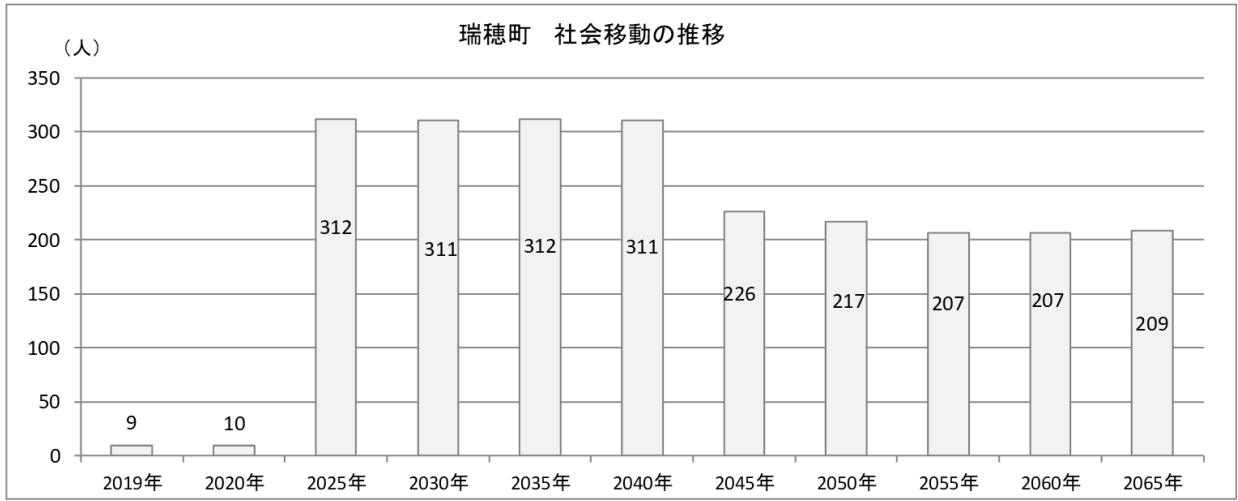
▼合計特殊出生率

	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
合計特殊出生率	1.278	1.284	1.311	1.331	1.347	1.360	1.372	1.382	1.391	1.399	1.407



▼社会移動の推移

	実数	予測値									
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
社会移動の推移	9	10	312	311	312	311	226	217	207	207	209
増減率	—	11.1%	3020.0%	-0.3%	0.3%	-0.3%	-27.3%	-4.0%	-4.6%	0.0%	1.0%





3. 瑞穂町総合戦略

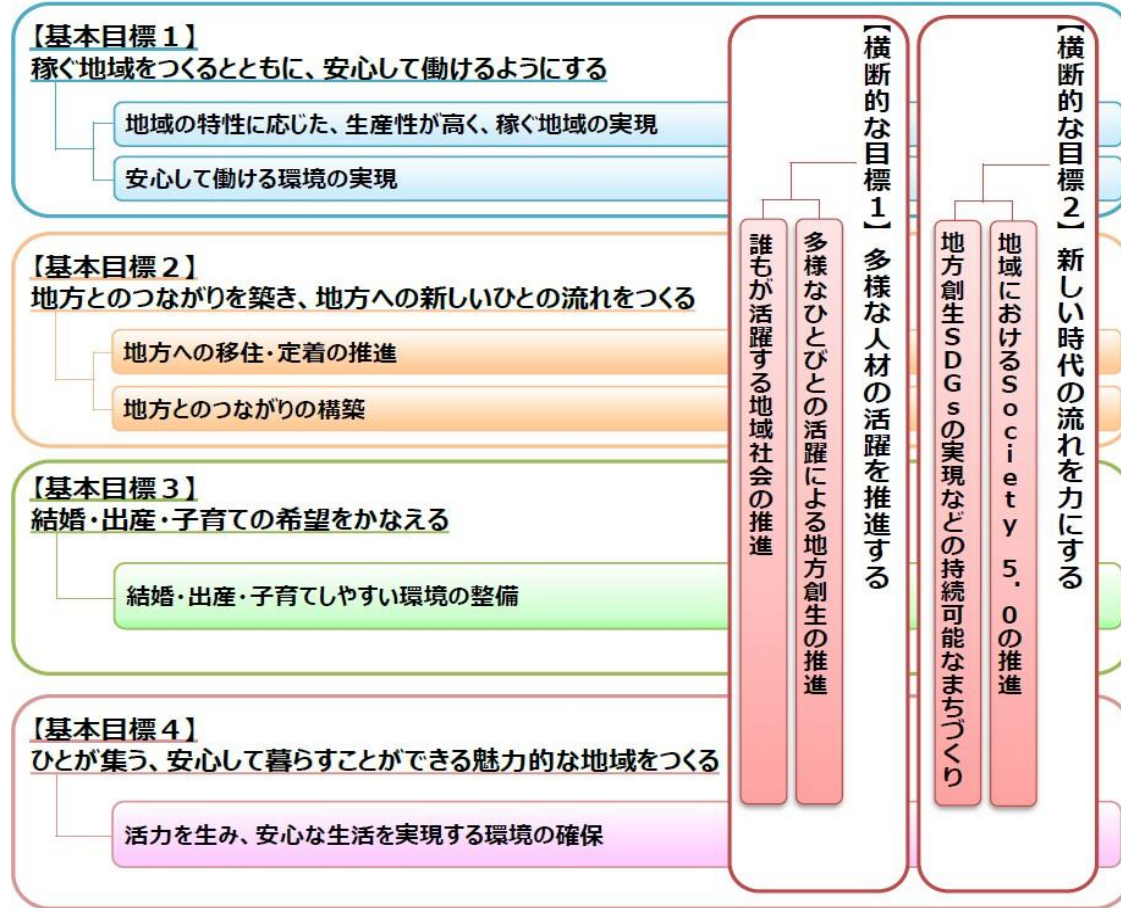
1) 総合戦略の位置づけ

瑞穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少を克服し、活力ある地域社会を維持するという方向性は長期総合計画と同一のものであることから、第5次瑞穂町長期総合計画と総合戦略を一体的に策定することとしています。

総合戦略の理念等は長期総合計画の体系の一部として扱い、その施策については、基本計画に含まれているものとしています。

2) 国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と瑞穂町総合戦略の施策の柱

<国の第2期総合戦略施策の方向性>



<瑞穂町総合戦略の施策の柱>

(1) 時代に対応したまちづくりと地域経済の活性化

- ① 地域企業の生産性向上への支援
- ② 継続的な地域発イノベーション等の創出
- ③ 農業経営への支援

- 4-1-1 農業経営基盤の強化
- 4-1-2 農業経営の振興
- 4-2-1 企業誘致の推進
- 4-2-2 工業の振興
- 4-2-3 企業誘致の推進
- 4-2-4 新しい産業の創出イノベーション

(2) 新しい人の流れをつくる

- ① 魅力あるまちづくり
- ② 誰もが活躍できる地域社会の推進

- 6-1-1 多摩都市モノレール延伸と一体となった駅周辺の整備
- 7-1-1 協働型社会の推進
- 7-3-3 健全な財政運営と中期財政計画の適切な運用

(3) 女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備

- ① 結婚・出産・子育てしやすい環境の整備
- ② 仕事と子育ての両立
- ③ 子育てしやすい地域の推進

- 2-1-1 切れ目のない妊産婦・子ども・家庭への支援
- 2-1-2 子どもと親の居場所づくり
- 2-2-1 待機児童の解消
- 2-2-2 保育・幼稚園の質の向上
- 2-2-3 学童保育クラブの運営
- 2-4-1 豊かな心を育て、いのちや人権を尊重する態度を育む
- 2-5-1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む
- 3-4-3 男女共同参画社会の推進

(4) 安心して暮らせる地域づくり

- ① 地域資源を活かした個性あふれる地域の形成
- ② 安心して暮らすことができるまちづくり

- 3-1-2 図書館活動の充実
- 3-2-1 文化・芸術の振興
- 5-1-1 災害に強いまちづくりの推進
- 5-1-2 危機対応・危機管理体制の強化
- 5-2-1 防犯環境の推進
- 6-2-1 バス交通の充実

SDGsの実現などの持続可能なまちづくり

3) 総合戦略の基本目標

(1) 時代に対応したまちづくりと地域経済の活性化

瑞穂町の産業構造は、先端技術に代表される工業の比重が高く、西多摩地区の産業拠点を形成しています。一方で狭山丘陵をはじめとした豊かな緑あふれる自然環境のもと、野菜、茶、花き園芸、畜産などのさまざまな農業が営まれています。

今後は時代の流れに対応するため、国や東京都等の制度を活用して、町に集積する先端技術等の企業活動を支援し、イノベーションの創出につとめます。また、農業者への支援を行います。一方で、狭山丘陵の豊かな自然を生かし観光やイベントなどを充実させ、地域経済の活性化をはかります。

新型コロナウイルス感染症によりICTの活用やテレワークなどの普及が一般化し、社会全体の働き方にも大きな影響がありました。この傾向は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後でも定着するものと考えられ、新たな働き方に対応した施策を推進していきます。

(2) 新しい人の流れをつくる

近年の国勢調査の分析では、瑞穂町は子育て世帯の転入が増えている傾向ですが、平成17(2005)年以降緩やかに人口の減少が続いています。瑞穂町の人口減少の流れに歯止めをかけ、住んでみたい、訪れてみたいと思われる、魅力や愛着のあるまちづくりをすすめ、新しい人の流れを作り出すことをめざします。

また、瑞穂町では、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面への延伸に向け、東京都が調査設計等に取り組むなど、大きな一歩が踏み出されています。多摩都市モノレールの延伸は、人の流れ、物の流れに変化が起こる、町にとっての大きな転換点となります。この多摩都市モノレールの延伸をはじめとした新しい時代の流れを活用し、産業や各地区における特性が発揮できるよう、未来に向けた都市空間の創出をはかります。

一方で、新しい流れを呼び込むには、新たなモノを生み出す雰囲気醸成が必要です。多摩都市モノレールの延伸を契機として、新たな環境をいかせるよう、住民や活動団体、企業などをつなぎ、様々な幅広い分野での活動や交流を促進させるまちづくりをめざします。

(3) 女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備

子どもに目が行き届き、安心して子どもを産み育てられ、子ども親も笑顔でいられることは町の魅力となり、また地域での生活が楽しくなることにつながります。保護者、地域、行政や関係機関や団体と連携しながら、次代の担い手であるすべての子どもたちの成長を支えあえるまちをめざします。

そして、まちの財産である子どもたちが将来に向かって自立・協働・創造できるよう、人権の尊重や学力の育成などといった、教育の充実に努めます。また、地域社会においても性別にとらわれることなく、あらゆる世代が、自らの希望に応じた生き方を選択できることが理想です。男女共同参画社会を実現するためには、男女の役割における固定観念を払拭し、性別などに関わらず多様な人材が活躍する社会を目指す必要があることから、町でも意識変革をはかるよう進めていきます。

(4) 安心して暮らせる地域づくり

今の時代は、目に見えないウイルスや細菌による感染症対策、また、地球温暖化による記録的な集中豪雨や台風被害、マグニチュード7クラスの首都直下地震の対策など、あらゆる脅威が予測されるなか、減災のまちづくりに向けて、総合的な危機管理対策がもとめられています。安全に安心して住むことができるまちを実現するために、住民、地域および瑞穂町が一体となって防災と減災の対策に取り組めるよう、防災のまちづくりを推進します。また、地域住民に対して犯罪が起きにくい環境を促進します。

今ある公共空間や地域資源をより有効に活用することで、それぞれの資源の持つ機能を組み合わせたり、つなぎ合わせたりすることなどにより、住民の生活がより豊かになるとともに、相乗効果や新たな価値が生み出されている姿をめざします。

また、地域社会の持続性の確保や魅力の向上、そして、安心して暮らせる地域の実現のため、SDGsの理念に沿った環境保全の活動を推進します。

4) 数値目標

指標名	現状値	令和7年度目標値	令和12年度目標値
(1) 時代の流れの活用と地域経済の活性化			
①新規就農者受入件数(累計)	16人 (令和元年度末日時点)	19人	21人
②企業誘致奨励制度による 企業立地数	3社 (令和元年度)	6社	9社
(2) 新しい人の流れをつくる			
①地域づくりで果たす役割の 地域社会の活動に積極的に 参加する人の割合	18.4% (令和元年度)	20%	22%
(3) 女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備			
①この地域で、今後も子育てを していきたいと回答した人 の割合の平均値	91.8% (令和元年度)	93.7%	95.6%
② 保育園待機児童数	0人 (令和2年4月現在)	0人	0人
学童保育待機児童数	1人 (令和2年4月現在)	0人	0人
(4) 安心して暮らせる地域づくり			
①図書館(図書室)利用者数	31,746人 (令和元年度)	33,000人	35,000人
②犯罪発生件数	228件 (令和元年)	200件	175件
③できれば引っ越したい理由のうち 「交通の便が悪い」の割合(の減少)	89.6% (令和元年度)	85%	80%

5) 具体的な施策（長期総合計画基本計画）

(1) 時代に対応したまちづくりと地域経済の活性化

4-1-1 農業経営基盤の強化

農業者の経営基盤の強化に向けた支援を推進します。また、町内で生産された農畜産物については、加工や新商品の開発、付加価値を高めるような取り組み、販路開拓・拡大、みずほブランドを含む農畜産物のPRなどの取組を推進します。

4-2-2 工業の振興

経営基盤が不安定な中小企業に対し、融資制度の促進や商工会や専門家などと連携し、企業経営の安定に向けた支援と今後のデジタル化推進に向けた支援につとめます。また、企業訪問で得た課題に対し支援策を検討します。さらに、青梅線沿線地域産業クラスター協議会などと連携し、企業支援につとめます。

4-2-3 企業誘致の推進

雇用の確保、経済波及効果およびイノベーション創出のため、優良企業の立地を促進します。

4-2-4 新しい産業の創出・イノベーション

最先端技術の活用や新しいサービスを生み出すため、異業種・他分野の組織の枠を越えた活発な人材交流を促進することで、新たな産業、イノベーションの創出につとめます。さらに、新たなイノベーションを創出するためにも事業承継について支援します。

(2) 新しい人の流れをつくる

6-1-1 多摩都市モノレール延伸と一体となった駅周辺の整備

箱根ヶ崎駅や多摩都市モノレール新駅において、新たなにぎわいの創出や多様な人々の交流の拠点として、新しい町の顔づくり、交通結節点となる地域の拠点のあり方を検討します。また、低炭素型まちづくりの視点から快適な歩行空間と自転車が利用しやすい環境を備えた交通拠点などの、整備について関係者などと調査研究し、整備の方向を明確にしていきます。

事業中や今後の新たな土地区画整理事業においては、駅周辺の整備の方向性と連携させ、住宅・商業・工業などの多様な用途を適正に配置・誘導し、調和した魅力ある都市空間の創出をはかります。

7-1-1 協働型社会の推進

住民や地域などが抱える問題や課題を解決するため、瑞穂町協働宣言や瑞穂町協働事業

ガイドラインに沿った協働の実現を推進します。

7-3-3 健全な財政運営と中期財政計画の適切な運用

歳入の多角化、安定化に向けた取組や、民間活力の導入、費用対効果意識の徹底や長期的な視点による財政支出を検討し、安定した財源の確保と歳出の抑制による健全な財政運営を推進します。

(3) 女性が輝き、安心して子どもが育てられる環境整備

2-1-1 切れ目のない妊産婦・子ども・家庭への支援

妊産婦、18歳未満の子どもと家庭を支援するため、交流の促進、相談・援助、地域の子育て関連情報の提供、講習などの充実をはかります。

2-1-2 子どもと親の居場所づくり

児童館や子ども家庭支援センター等で、子どもと親の居場所としての環境づくりを推進します。また、児童館や保育園・幼稚園の園庭開放などによる「子育てひろば」活動を充実し、親子交流事業等の充実をはかります。

2-2-1 待機児童の解消

幼稚園から認定こども園への移行など、引き続き待機児童0を継続するあらゆる施策を展開し、良質な保育サービスをめざします。また、保護者のニーズに対応した、町内全幼稚園で実施している預かり保育事業の継続と拡充のための支援を推進します。

2-2-2 保育・幼稚園の質の向上

延長保育や病児・病後児保育等、多様化する保育サービスに柔軟に対応するとともに、子どもの発達に合わせたカリキュラムを充実させ、保育士の知識・技術の向上を支援します。さらに、保育事業等の環境整備の充実をはかります。

2-2-3 学童保育クラブの運営

多様化する利用者ニーズに対応するため、さまざまな児童の受入体制を整備するとともに、指導員などの知識や技術の向上をはかり、施設運営の拡充につとめます。

2-4-1 豊かな心を育て、いのちや人権を尊重する態度を育む

人権尊重の理念を広く深く定着させ、あらゆる偏見や差別をなくすための人権教育を推進するとともに、いのちを大切にする心や自他ともに思いやる心、規範意識を育む道德教育を行います。また、インターネットなどの利用により、いじめなどのトラブルや犯罪に巻き込まれないよう、児童・生徒と保護者がともに情報モラルについて学ぶ機会を設定するなど、

児童・生徒の発達段階に応じ指導を行います。いじめは人権侵害であり、どの学校でも、どの児童・生徒にも起こる可能性があるとの認識のもと、学校の教育活動全体を通じて指導の徹底をはかります。

2-5-1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む

学級や学年、学校の集団づくりは大切であり、より良い集団づくりに参画させることで、児童・生徒の一人ひとりの良さや可能性を活かすと同時に寛容で共感的な集団の雰囲気醸成します。学習習慣の形成や学習意欲を高めることも含め、英語検定や漢字検定、地域学校協働本部の運営による放課後学習等を実施し、学力を向上する取組を行います。

3-4-3 男女共同参画社会の推進

瑞穂町男女共同参画社会推進行動計画の基本理念「一人ひとりが共につくる地域社会をめざして」の実現に向け、あらゆる場での男女共同参画社会形成および多様性を尊重する意識醸成に向けた個別施策をすすめます。

(4) 安心して暮らせる地域づくり

3-1-2 図書館活動の充実

図書館改修に向けて確実に事業を実施するとともに、人と人を繋ぐ交流の場となるよう、幅広い分野の図書資料を収集し、調査相談・情報提供のさらなる充実につとめます。また、住民との協働でおはなしの会等の読書活動を推進し、自分の居場所と感じられる交流の場を創出するとともに、住民に親しまれる図書館をめざします。

3-2-1 文化・芸術の振興

優れた文化・芸術に親しむ機会の提供や、文化団体などの自立するための支援を行います。また、スカイホールを拠点とした事業の展開、耕心館と郷土資料館が一体となった、音楽や演劇、文化活動などの成果を発表する場の創出および事業の充実をはかります。

5-1-1 災害に強いまちづくりの推進

災害に強い都市の形成をはかるため、建築物の耐震性強化を推進します。火災の発生、危険物の存在などの危険要因への対処など、災害に強いまちづくりの推進につとめます。

5-1-2 危機対応・危機管理体制の強化

各種計画・マニュアルなどについて、社会情勢に応じて不断の見直しを行うとともに、自主防災組織等との連携強化、備蓄品、資器材などの整備を促進します。また、新庁舎を防災拠点とした関係機関・団体とのネットワークの強化、災害予防・災害応急対策・災害復旧の訓練などを実施し、危機管理の強化につとめます。

5-2-1 防犯環境の推進

福生警察署との連携を強化し、犯罪抑止をはかるとともに、犯罪をさせない環境整備を推進します。また、防犯パトロールの充実、防犯協会などの防犯ボランティアと協働により防犯環境を充実します。

6-2-1 バス交通の充実

関係機関に対し、JR箱根ヶ崎駅や町内の主要な施設へアクセスできる利便性の高いバス交通の運行を推進、路線の維持につとめます。さらに、新たな公共交通の検討、研究を行います。

瑞穂町 まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和3年3月

発行 瑞穂町

〒190-1292

東京都西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎2335番地

電話 042-557-0501(代)

企画・編集 企画部企画課